

令和6年度 第1回諏訪市環境審議会

日時 令和6年7月19日（金）
13時30分～
会場 諏訪市役所2階201会議室

次第

- 1 開 会
- 2 市長挨拶
- 3 委嘱状交付
- 4 自己紹介
- 5 会長・副会長の選出
- 6 説明事項

（1）環境基本計画及び環境審議会について

資料1

- 7 報告事項
 - （1）令和6年度諏訪市環境推進会議の開催状況について

第三次諏訪市環境基本計画の進行管理

資料2-1

資料2-2

- 8 その他
- 9 閉 会

諏訪市環境基本条例第21条、22条
令和6年度 諏訪市環境審議会 委員名簿

(敬称略、順不同)

	団体名等	役職等	氏名	備考	委嘱期間 開始日	委嘱期間 最終日
1	国立大学法人信州大学	教授	ミヤバラ ユウイチ 宮原 裕一		R6. 4. 1	R8. 3. 31
2	中部電力パワーグリッド株式会社	松本支社地域サービスG	コヤマ マサミ 小山 雅美	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
3	一般社団法人長野県環境保全協会 諏訪支部	事務局	マキノ トウタ 牧野 透太		R6. 4. 1	R8. 3. 31
4	岡谷酸素株式会社	営業部次長	コマツ ヒロアキ 小松 弘明	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
5	笠原環境経営	長野県温暖化防止活動推進員	カサハラ マサオ 笠原 雅男		R6. 4. 1	R8. 3. 31
6	諏訪信用金庫	しんきんローンセンター センター長	オグチ カズエ 小口 和恵	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
7	霧ヶ峰自然環境保全協議会	座長	ツチダ カツヨシ 土田 勝義		R6. 4. 1	R8. 3. 31
8	公益社団法人諏訪圏青年会議所	常任理事	マスザワ カナ 増澤 伽奈	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
9	一般社団法人諏訪観光協会 すわ姫会	すわ姫会	フルバヤシ エミコ 古林 絵美子	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
10	株式会社ジェイ・キッズ	専務取締役	コハリ チエミ 小針 知栄美	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
11	信州諏訪農業協同組合	理事	フジモリ リホ 藤森 紀保		R6. 4. 1	R8. 3. 31
12	諏訪湖温泉旅館協同組合	理事長	イトウ カヅエキ 伊東 克幸		R6. 4. 1	R8. 3. 31
13	諏訪湖漁業協同組合	組合長	フジモリ ケイキチ 藤森 恵吉		R6. 4. 1	R8. 3. 31
14	諏訪市衛生自治連合会	会長	コバヤシ サトシ 小林 佐敏		R6. 4. 1	R8. 3. 31
15	諏訪市保育園保護者会連合会	会長	イワナミ ジュンイチ 岩波 純一	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
16	諏訪商工会議所	専務理事	オオダテ ミチヒコ 大館 道彦		R6. 4. 1	R8. 3. 31
17	諏訪地域振興局環境課	課長	タダチ トシカズ 忠地 利和	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
18	諏訪市校長会	会長	オグチ カオリ 小口 かおり	新任	R6. 4. 1	R8. 3. 31
19	諏訪市農業委員会	会長	コイズミ ユキシ 小泉 幸善		R6. 4. 1	R8. 3. 31

第三次諏訪市環境基本計画について

1. 諏訪市環境基本計画の概要

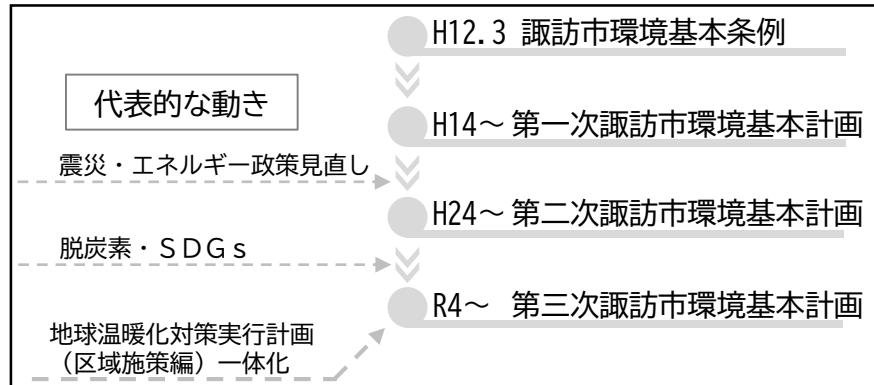
(1) 計画策定の主旨

諏訪市環境基本条例第2条に規定する基本理念を踏まえ、同条例第7条に基づき、複雑で多様な環境問題に対応し、環境の保全に関する施策を長期的、総合的かつ計画的に推進するための基本となる計画として策定しています。基本理念は以下のとおりです。

- ①健全で豊かな環境の恵沢の享受と将来にわたっての維持
- ②環境への負荷の少ない持続的な発展が可能な社会の構築
- ③地球環境保全

(2) これまでの環境基本計画

基本理念実現を踏まえ、平成14年3月に第一次諏訪市環境基本計画を策定しました。第一次諏訪市環境基本計画策定後、計画期間10年が経過すること、本市環境行政を取り巻く情勢等が変化していること、および国や長野県の環境計画等と整合を図らなければならないことなどから平成24年3月に改定を行い、第二次諏訪市環境基本計画を策定しています。



2. 第三次諏訪市環境基本計画について

(1) 計画の位置付けと対象範囲

第三次諏訪市環境基本計画は、国や県の「環境基本計画」、市の「総合計画」といった上位計画や関連計画との整合をはかりつつ、市民・事業者・行政による環境活動や地球温暖化対策の最上位計画として策定しています。対象範囲は諏訪市全域であり、「本市の環境への影響が考えられる活動全て」が対象となっています。対象とする環境区分は、「地球環境」「自然環境」「生活環境・快適環境」「循環型社会」「参加と協働」となります。

(2) 計画期間

第三次諏訪市環境基本計画の計画期間は、令和4（2022）年度～令和13（2031）年度までの10年間です。なお、中間の5年を目途に見直しを行い、新たに発生する環境課題へ対応するなど、柔軟に対応することとしています。

(3) 地球温暖化対策実行計画(区域施策編)

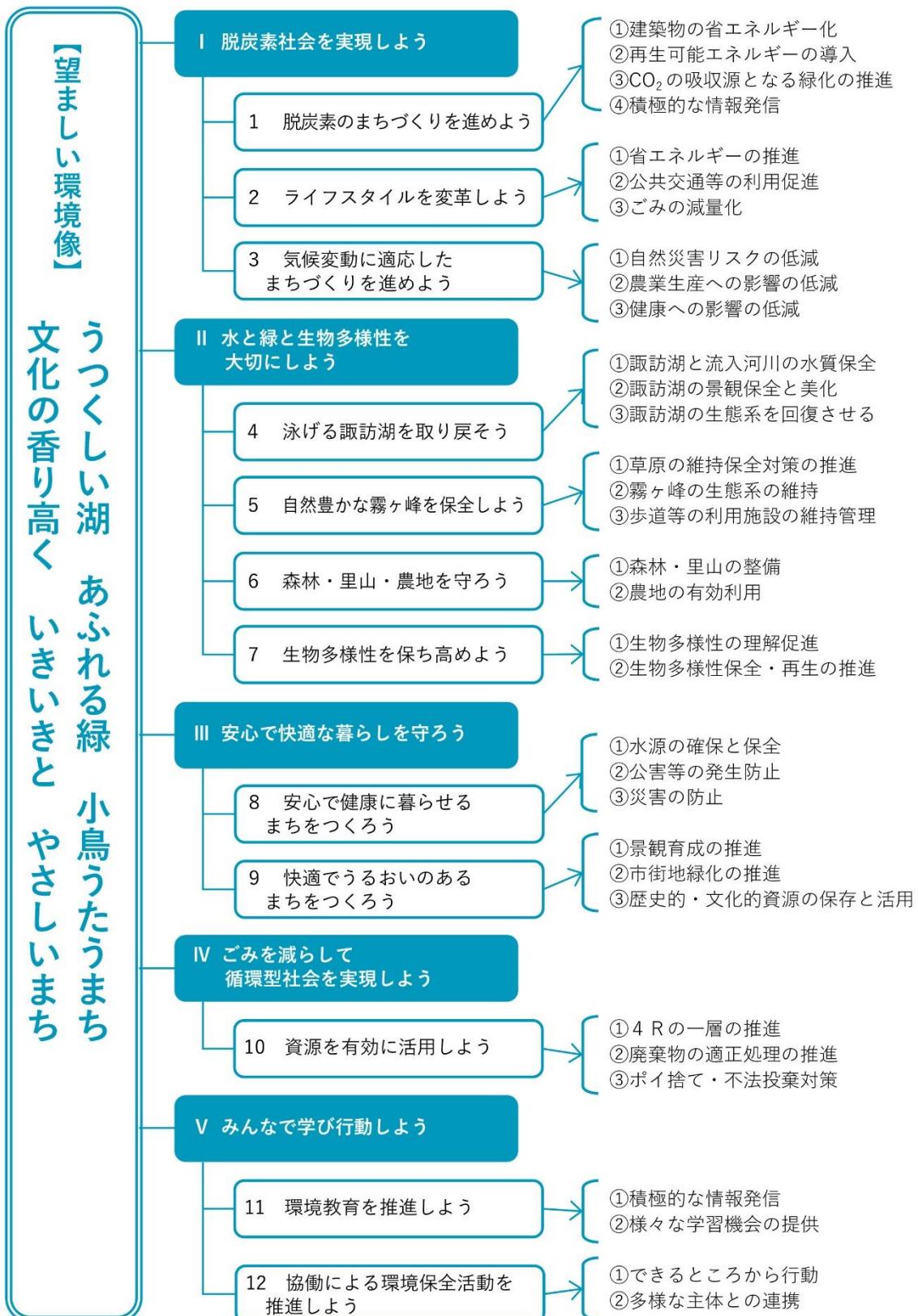
一体化

日本は令和2年に「2050年カーボンニュートラル」を宣言し、長野県も令和3年に「長野県ゼロカーボン戦略」を策定しました。どちらも2050年の温室効果ガス排出量実質ゼロを目指す目標を掲げるもので、これは代表例ですが、国内外の地球温暖化対策を取り巻く状況は大きく変化しています。この重要な課題に対応していくため、第三次諏訪市環境基本計画策定に合わせ、第二次諏訪市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を一体化して策定しました。

地球温暖化対策実行計画（区域施策編）は「その区域の自然的・社会的条件に応じて温室効果ガス排出の抑制等を行うための施策」として位置付けられており、諏訪市全域での温暖化対策のための施策です。なお、諏訪市役所という事業所としては事務事業編という計画を別に策定しています。

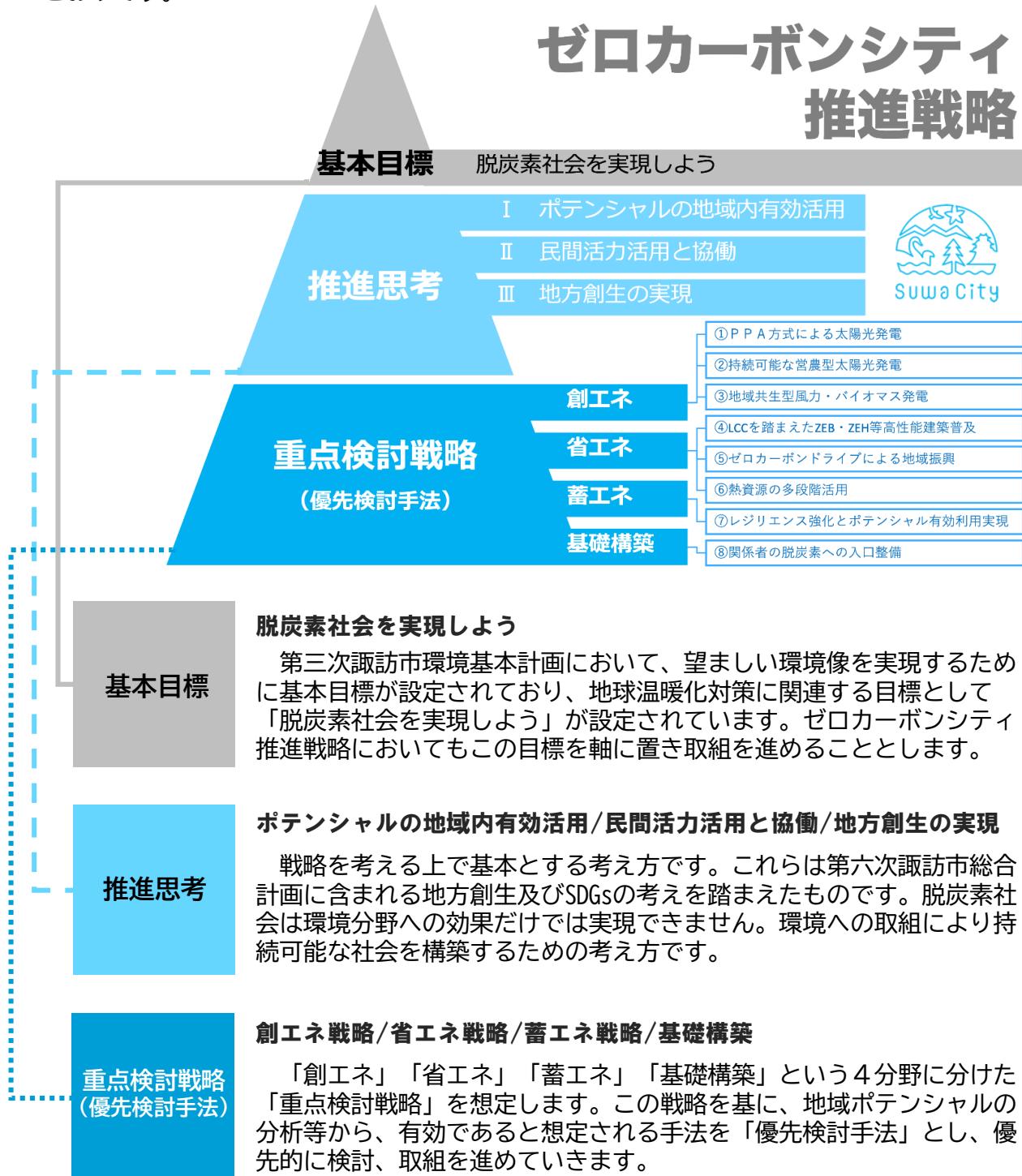
(4) 望ましい環境像と基本目標

第二次計画から引き続き、諏訪市民憲章でうたわれている理念を望ましい環境像として掲げています。この望ましい環境像実現のため、5つの基本目標を設定しています。また、各基本目標には「具体的な取組の方針」と「取組の方向」を設定しています。



（5）ゼロカーボンシティ推進戦略

第三次諏訪市環境基本計画には、第二次諏訪市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）が包含されています。諏訪市では令和4年3月にゼロカーボンシティ宣言をし、計画においても2030年には実質60%の温室効果ガス排出量の削減を目指としていますが、何も取組をしなければ19.2%の削減にとどまるところから、取組の加速が必要です。そのために、令和6年3月に計画を一部改訂し、「ゼロカーボンシティ推進戦略」という取組を加速させるための戦略を追加しました。詳細については計画書及び概要版に記載されていますが、計画の構造は以下のとおりです。



諏訪市環境審議会について

1. 諏訪市環境審議会の概要

(1) 環境審議会の設置

環境基本法第四十四条において、「市町村は、その市町村の区域における環境の保全に関して、基本的事項を調査審議させる等のため、その市町村の条例で定めるところにより、環境の保全に関する学識経験のある者を含む者で構成される審議会その他の合議制の機関を置くことができる。」としています。

これに対して、諏訪市では諏訪市環境基本条例第21条で、「環境基本法第44条の規定に基づき、諏訪市環境審議会を設置する。」と定め、諏訪市環境審議会を設置しています。

(2) 諏訪市環境審議会の任務

審議会の任務は、諏訪市環境基本条例第21条の2において「市長の諮問に応じて環境の保全に関する基本的事項並びに諏訪市自然環境保全条例に規定する事項及び自然環境の保全に関する重要事項等について調査審議するほか、当該事項について市長に意見を述べることができる。」としています。任務を整理したものは以下の通りです。

質問・答申

- ・環境の保全に関する基本的事項
- ・諏訪市自然環境保全条例に規定する事項
- ・自然環境の保全に関する重要事項 等

【具体例】

- 環境基本計画の策定や改訂
環境に関連する新たな制度の設置
大規模な開発行為について 他

確認・意見

- ・環境推進会議の報告
(進捗状況、取組状況等)

【具体例】

- 環境施策の実施状況や進行管理について
啓発等の取組内容について 他

【参考：諏訪市環境推進会議】

諏訪市環境推進会議という組織もあります。こちらは、市民・事業者・行政が強力な連携と協働のもと、国・県・近隣自治体と連携し、それぞれの役割を果たしながら計画を推進するため、市民・事業者・行政の各代表により構成される組織となります。

環境推進会議の任務は以下の通りです。

- ・計画の進捗状況の把握、取組状況などのとりまとめ
- ・施策の修正、目標値の設定、行動指針の見直しなど
- ・各主体に対する提言
- ・啓発の方法

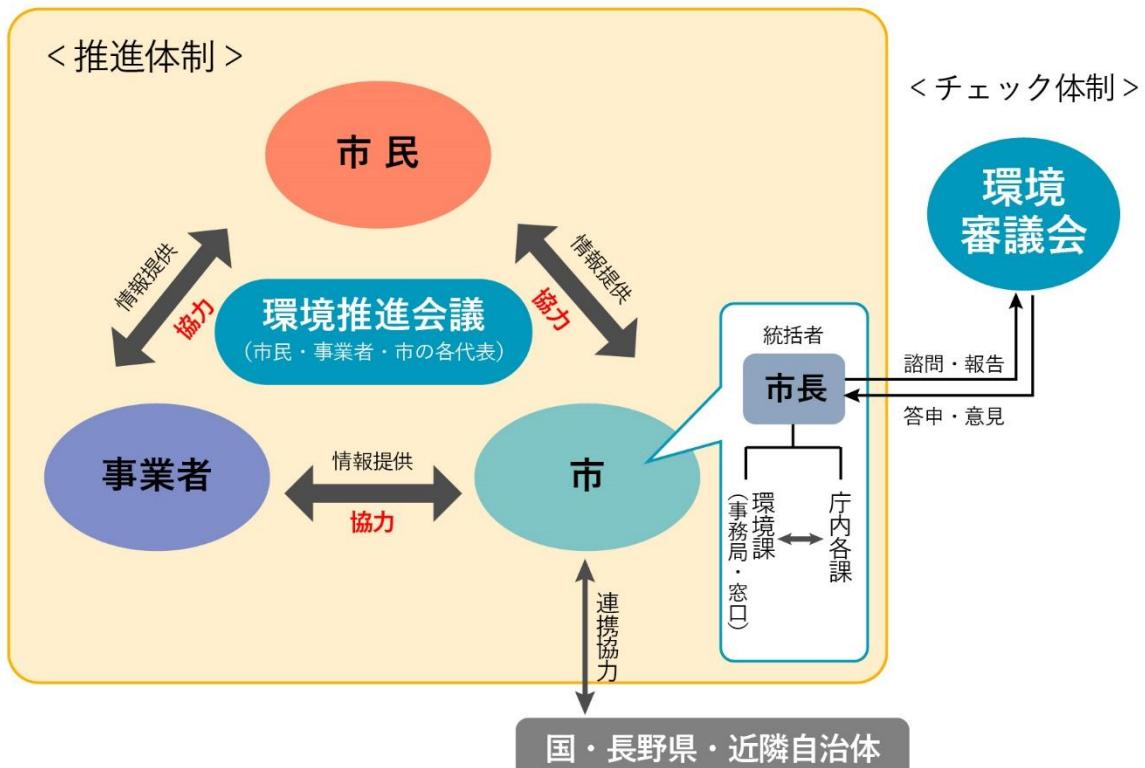
環境推進会議と環境基本計画

1. 誠訪市環境推進会議

(1) 計画の推進

計画の推進にあたり、市民・事業者・市は強力な連携と協働のもと、国・県・近隣自治体と連携し、それぞれの役割を果たしながら計画を推進します。市民・事業者・行政の各代表により構成される環境推進会議は、これを実現するための組織です。

なお、計画が適切に実行されているかは環境審議会が確認をします。

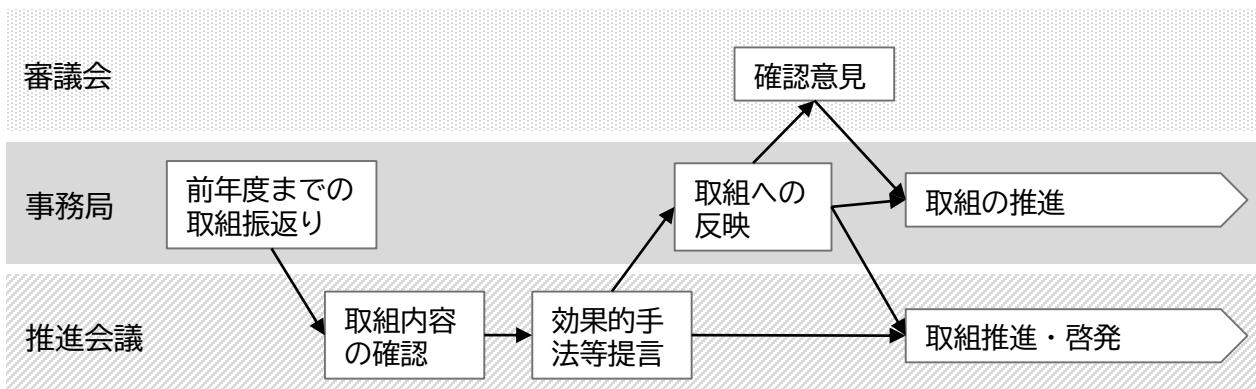


(2) 計画の推進のための検討

計画、取組推進の成果を上げるために以下の検討をしていきます。

- 計画の進捗状況の把握、取組状況などのとりまとめ
- 施策の修正、目標値の設定、行動指針の見直しなど
- 各主体に対する提言
- 啓発の方法

(3) 会議での活動の流れ (例)



第三次諏訪市環境基本計画進行管理シートの確認方法

諏訪市環境推進会議では、第三次諏訪市環境基本計画の進行状況について担当課で評価した内容を推進委員の立場から確認し、意見や提言をいただいている。その方法について本資料でご説明いたします。シートの見方等は次ページ以降をご確認ください。

↓推進会議で実施した進行管理の方法↓

1

計画とシート構造の確認

まずは、第三次諏訪市環境基本計画の構造、進行管理シートの構造を確認します。 (P2~3)

2

全体の状況把握

重要業績指標の達成度と評価点の状況について把握します。 (P4)

3

基本目標の状況把握

基本目標分野の状況、目標達成率及び関連する方針の評価を把握します。 (P5)
基本目標 I については温室効果ガス排出量の把握も行います。 (P6~7)

4

方針毎の取り組み状況把握

各方針の状況を具体的な取組、担当課の評価結果から確認します。 (P8)

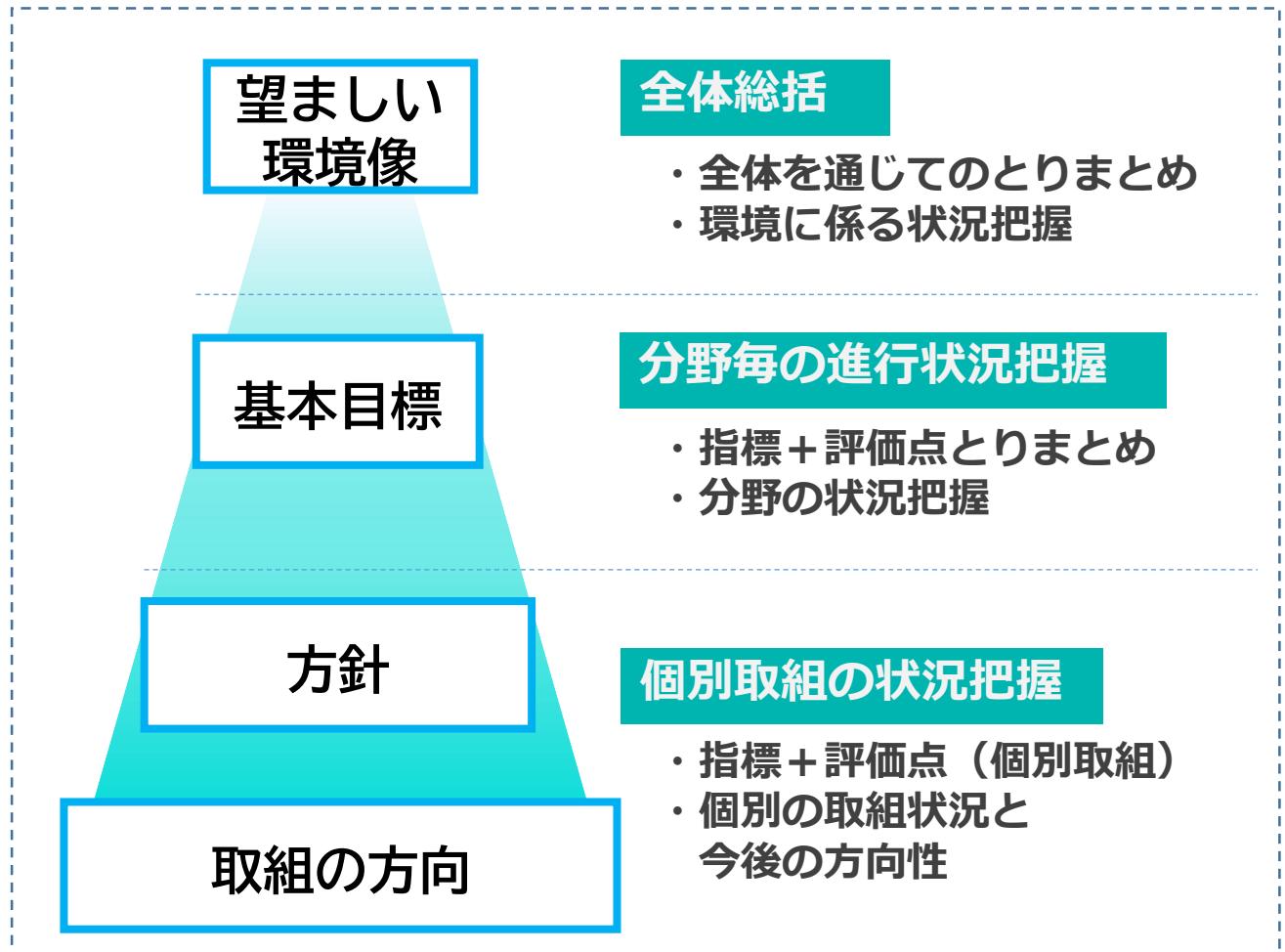
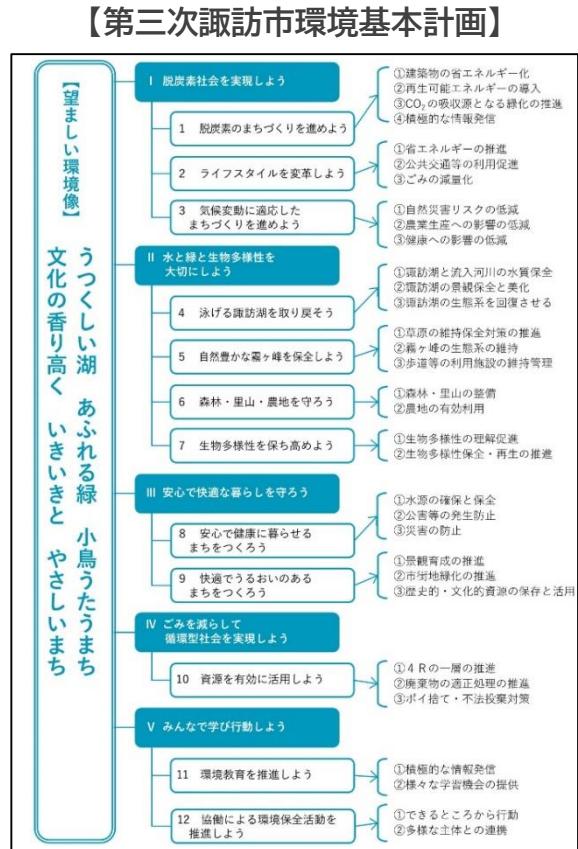
5

個別取組に対する意見及び提言

確認した取組について、意見や提言をします。 (P8)

計画とシート構造の確認

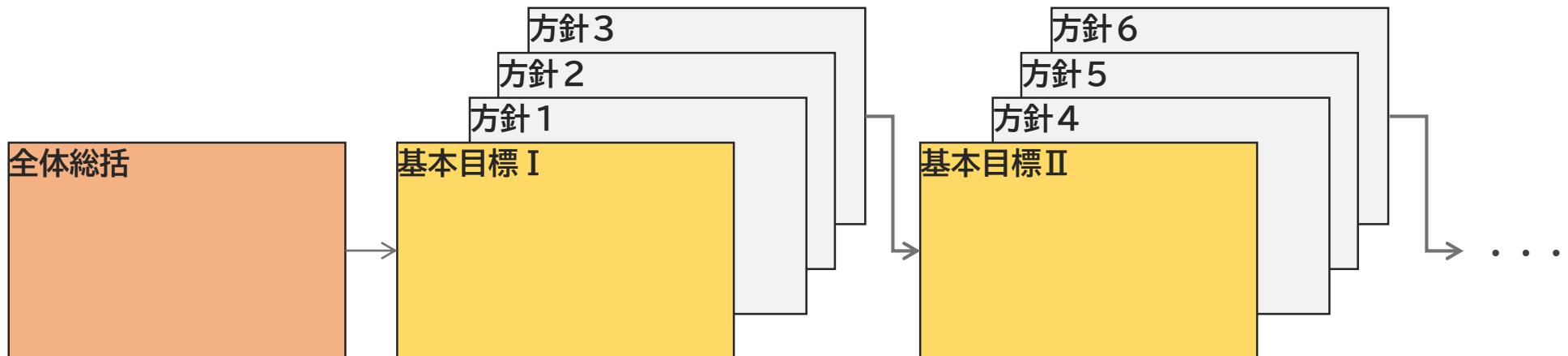
第三次諏訪市環境基本計画は、望ましい環境像実現のために5つの基本目標があり、その達成のための方針を設定しています。これが第三次諏訪市環境基本計画の構造です。進行管理においても、この3層構造での管理を行います。特に方針については、個別の取組の状況を把握し改善につながることから、方針を中心に進行管理の確認を行います。



計画とシート構造の確認

第三次諒訪市環境基本計画進行管理シートは、計画体系と同じく全体統括シート、基本目標シート、関連する方針シートという3段階構成となっています。それぞれのシートの役割は以下のとおりです。

- ▶ **全体統括シート** 重要業績指標、評価点について取りまとめたものです。数字で全体の状況を把握するためのシートです。
- ▶ **基本目標シート** 総合計画の重要業績指標（KPI）、方針毎の評価点から基本目標分野の状況を把握するためのシートです
- ▶ **方針シート** 方針に関する個別の取組状況を把握し進行管理を行うためのシートです。



※シートはこの順で作成しています。

全体の状況把握

基本目標シート、方針シートを確認いただく前に、まずは計画全体に関する重要業績指標の達成度及び評価点の状況を確認します。

【シートの確認方法】

第三次諒訪市環境基本計画進行管理シート

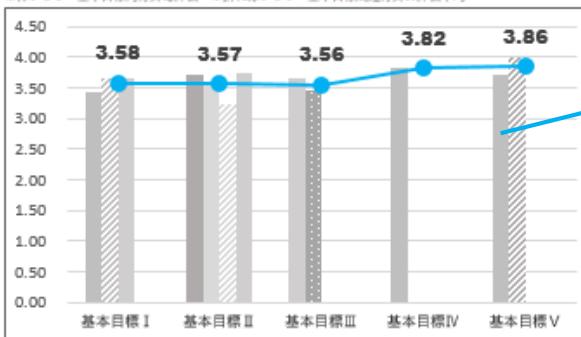
資料2-2

基本目標Ⅰ 脱炭素社会を実現しよう		P4		基本目標Ⅲ 安心で快適な暮らしえを守ろう		P21		
方針1	脱炭素のまちづくりを進めよう	P5		方針8	安心で健常に暮らせるまちをつくろう	P22		
方針2	ライフスタイルを変革しよう	P8		方針9	快適でうるおいのあるまちをつくろう	P24		
方針3	気候変動に適応したまちづくりを進めよう	P10						
基本目標Ⅱ 水と緑と生物多様性を大切にしよう		P11		基本目標Ⅳ ごみを減らして循環型社会を実現しよう		P26		
方針4	速行する防火網を取り戻そう	P12		方針10	資源を有効に活用しよう	P27		
方針5	自然豊かな轟ヶ峰を保全しよう	P15						
方針6	森林・里山・農地を守ろう	P17						
方針7	生物多様性を保ち高めよう	P19						
●KPI達成率		●KPIの評価区分集計		●方針毎の評価と基本目標に関する方針の評価平均		●株式会社の登録者数		
項目	R5 達成率	前年度 達成率	達成率評価	基準	非常に順調	順調	努力が必要	効果なし
基本目標Ⅰ 方針1 再生可能エネルギー・システム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	105.7%	104.5%	非常に順調	数量	3	6	3	1
轟ヶ峰高原草原再生作業（林木処理）実施面積累計	97.2%	97.9%	順調	割合	23.1%	46.2%	23.1%	7.7%
森林整備面積	53.6%	80.0%	努力が必要	※非常に順調…達成率100%以上、順調…達成率80%以上、努力が必要…達成率50%以上、効果なし…達成率49%以下				
松枯朽木の伐倒処理件数	40.0%	173.3%	効果なし					
木材搬出面積	68.0%	81.5%	努力が必要					
農業の担い手への農地集積率	90.2%	94.9%	順調					
轟ヶ峰高原草原再生作業（林木処理）実施面積累計	97.2%	97.9%	順調					
方針8 防災メールの登録者数	88.8%	87.1%	順調					
方針9 消防市防災気象情報システムアクセス数	131.2%	75.2%	非常に順調					
方針10 調査等アンケートで「諒訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	85.3%	31.3%	順調					
文化遺産関連の保存活動に参加した人数	192.7%	157.0%	非常に順調					
基本目標Ⅳ 方針10 燃やすごみ排出量	79.9%	78.4%	努力が必要					

1 KPIの達成率をまとめて掲載しています。前年度の達成率と比較可能です。

2 KPIの総合計画における評価分布を掲載しています。

3 基本目標毎の評価点をグラフにして掲載しています。



基本目標の状況把握

基本目標シートに記載の内容から、基本目標の状況を把握します。次のステップでは方針毎の取組状況を把握しますが、その取組がどの重要業績指標につながっているかを合わせて確認します。

【シートの確認方法】

I 脱炭素社会を実現しよう																															
基本目標																															
脱炭素社会の実現のため、二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指して、建築物の省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の大幅な削減を推進します。また、二酸化炭素の吸収源となる緑を積極的に増やす取組を推進します。																															
●基本目標Iに関連するKPI																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>年度</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>再生可能エネルギー・システム導入設備補助制度等による年間CO2削減量</td><td>目標値</td><td>4,235t</td><td>4,435t</td><td>4,635t</td><td>4,835t</td><td>5,035t</td></tr> <tr> <td></td><td>実績値</td><td>4,424t</td><td>4,689t</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td></td><td>達成度</td><td>104.5%</td><td>105.7%</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8	再生可能エネルギー・システム導入設備補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t		実績値	4,424t	4,689t					達成度	104.5%	105.7%					
項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8																									
再生可能エネルギー・システム導入設備補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t																									
	実績値	4,424t	4,689t																												
	達成度	104.5%	105.7%																												
●方針ごとの評価推移																															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th><th>R4</th><th>R5</th><th>R6</th><th>R7</th><th>R8</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>評価点平均</td><td>3.44</td><td>3.58</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>1 脱炭素のまちづくりを進めよう</td><td>3.08</td><td>3.42</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>2 ライフスタイルを変革しよう</td><td>3.57</td><td>3.67</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう</td><td>3.67</td><td>3.67</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>		項目	R4	R5	R6	R7	R8	評価点平均	3.44	3.58				1 脱炭素のまちづくりを進めよう	3.08	3.42				2 ライフスタイルを変革しよう	3.57	3.67				3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	3.67	3.67			
項目	R4	R5	R6	R7	R8																										
評価点平均	3.44	3.58																													
1 脱炭素のまちづくりを進めよう	3.08	3.42																													
2 ライフスタイルを変革しよう	3.57	3.67																													
3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	3.67	3.67																													
考察																															

1

計画の進行状況の指標です。目標に対しての達成度を年度毎に表しています。

2

基本目標に関連する方針毎の評価とその平均値を年度毎に表しています。

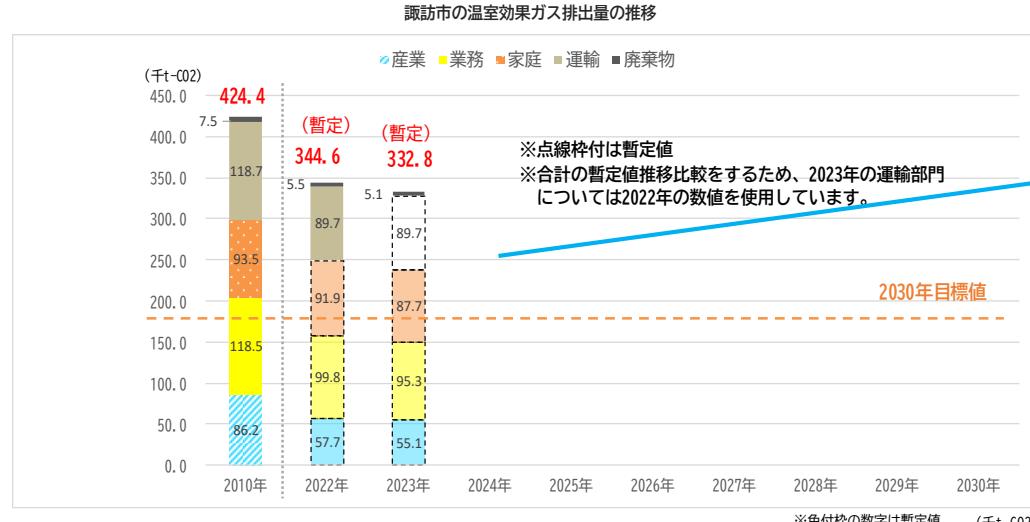
3

重要業績指標、評価点、個別取組の状況から基本目標の現時点の状況を記載しています。会議当日はここへ記載した取組を中心に説明します。

基本目標の状況把握

基本目標Ⅰでは、温室効果ガス排出量についても確認いただきます。排出量については把握できる数値が判明した段階で暫定値として推計し、統計等の確定値が公表された段階で確定とします。

【シートの確認方法】



1

温室効果ガス排出量推計値の推移をグラフで表示しています。

2

合計値と各部門別の排出量とともに、合計値と基準年（2010年度）に対する排出量の割合を表示しています。

部門別	産業	86.2	57.7	55.1					
	業務	118.5	99.8	95.3					
家庭	93.5	91.9	87.7						
運輸	118.7	89.7	89.7						
廃棄物	7.5	5.5	5.1						
合計	424.4	344.6	332.8						
2010年度比割合	-	81.2%	78.4%						
年	2010年 (基準)	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年

考察	・2022年段階で2030年BAU（19.2%削減し排出量は80.8%）とほぼ同等の削減は達成。一方で実質60%削減の目標達成には、現状の排出量を更に半減させなくてはならない。 ・今年度より温室効果ガス排出量の推計を独自推計方法としており、暫定値ではあるが早期の把握が可能となっている。2023年の電力需要実績は6月に提供予定でありその時点での2023年の暫定値も把握可能。現時点では2023年度暫定値把握前ではあるが、廃棄物部門については可燃ごみ減量による効果が表れている。 ・2023年は前年比で冬季気温が高かったことも影響してか、算出に使用する電力需要実績が5%弱減少している。

3

事務局による排出量の考察や特記事項について記載しています。

基本目標の状況把握

基本目標Ⅰでは、温室効果ガス排出量についても確認いただきます。排出量については把握できる数値が判明した段階で暫定値として推計し、統計等の確定値が公表された段階で確定とします。

【シートの確認方法】

温室効果ガス排出量（基本目標Ⅰ・ゼロカーボンシティ推進戦略関連）

◆参考指標

鹿訪市の魅力度 (目標値)	142位 (151位)	155位 (138位)	(126位)	(113位)	(100位)
市民満足度調査総合満足度 (目標値)	-		(令和5年度調査比向上)		
鹿訪市内事業者譲税標準額平均(千円/者) (目標値)	3,101 (2,128)	(2,149)	(2,170)	(2,192)	(2,214)
年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年

※色付枠の数字は暫定値

産業・業務・家庭部門	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
電力需要実績(MWh)	360,578	344,148							
事業者係数(t-CO2/MWh)	0.459	0.459							
各部門エネルギーの全体に占める割合(%)	産業	21.7%	21.7%						
	業務	43.9%	43.9%						
合(%)	家庭	32.4%	32.4%						
各部門エネルギーの電力比率(%)	産業	62.2%	62.2%						
	業務	72.8%	72.8%						
	家庭	58.3%	58.3%						

※色付枠の数字は暫定値

運輸部門	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
旅客部門	24,399.7	24,399.7							
国全体排出量(t-CO2/年)									
登録台数(台)	66,126,633	66,126,633							
自動車	34,819	34,819							
市町村別登録台数(台)									
車	47.1	47.1							
市内排出量(t-CO2/年)									
貨物部門	19,934.9	19,934.9							
国全体排出量(t-CO2/年)									
登録台数(台)	16,324,717	16,324,717							
自動車	8,873	8,873							
市町村別登録台数(台)									
車	39.7	39.7							
市内排出量(t-CO2/年)									
旅客部門	1,921.0	1,921.0							
貨物部門	96.4	96.4							
鉄道	125,416,877	125,416,877							
市町村人口(人)	48,385	48,385							
道路	2.7	2.7							
旅客部門市内排出量(t-CO2/年)									
貨物部門市内排出量(t-CO2/年)	0.1	0.1							

※色付枠の数字は暫定値

廃棄物部門	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
鹿訪市クリーンセンター可燃ごみ処理量(㎥)	12,146.5	11,662.3							
非市内排出分率(%)									

4

ゼロカーボンシティ推進戦略の参考指標の推移を表示しています。この数値の評価については総合計画の進行管理で実施しているため、参考として確認します。

5

温室効果ガス排出量の推計に使用した数値（バックデータ）を表示しています。このデータを基に前ページの排出量を算出しています。

4

方針毎の取組状況把握

5

個別取組に対する意見及び提言

各方針に関連する取組の内容、結果及び今後の方針性について確認いただきます。環境推進会議でいただいた意見については、会議後担当課から回答を作成しています。

6

方針に関連する取組の評価点の平均値です。

※基本目標シートにもこの結果が反映されています。

【シートの確認方法】

基本目標	Ⅳ 安心で快適な暮らしを守ろう				
方針	Ⅷ 安心で健康に暮らせるまちをつくろう				
取組の方向	①水道の確保と保全 ②公害等の発生防止 ③災害の防止				
評価の推移	R4	R5	R6	R7	R8
※評価点の平均	3.67	3.67			

7

推進会議後に委員からいただいた意見と担当課による回答（※→以降）を記載しています。

【評価点】

- 5…十分取り組まれている [100%以上の進捗状況]
- 4…かなり取り組まれている [80~99%の進捗状況]
- 3…ある程度取り組まれている [50~79%の進捗状況]
- 2…あまり取り組まれていない [30~49%の進捗状況]
- 1…取り組まれていない [30%未満の進捗状況]

主な取組		実施内容 <small>※新規又は改善した取組については下線</small>	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	特定建設作業、特定工場への対応	大きな騒音等の発生する特定建設作業及び特定工場について届出の徹底と必要に応じた指導を実施し、住民の安心できる生活環境を確保する。	提出された各届出について内容を確認し、必要に応じて指導等を行った。 【届出実績】 特定建設作業 騒音2件、振動2件 特定施設 騒音1件、振動3件	届出が出てきた場合には、周囲への配慮等指導を行う。	3	3	環境課	建設業者も扱い手不足や世代交代の時期に差し掛かっていたり、届け出等に漏れが出ることもありうると思う。提出されたなった案件などはあるか? →届け出等に漏れはありませんが、届け出がされている、もしくは届け出の義務がない案件への苦情の対応はありました。必要に応じて対応していきます。

1 事業名などの取組の名称です

2

実施内容です。

3

2の実施結果を端的に記載しています。

4

3の結果や社会情勢等から担当課の分析した課題や方向性を記載しています。

5

取組毎の評価点です。評価は次ページ掲載の基準により行っています。

第三次諏訪市環境基本計画進行管理シート

資料2-2

基本目標 I	脱炭素社会を実現しよう	P4
	(諏訪市の温室効果ガス排出量の推移)	P5
方針1	脱炭素のまちづくりを進めよう	P7
方針2	ライフスタイルを変革しよう	P12
方針3	気候変動に適応したまちづくりを進めよう	P16
基本目標 II	水と緑と生物多様性を大切にしよう	P17
方針4	泳げる諏訪湖を取り戻そう	P19
方針5	自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	P22
方針6	森林・里山・農地を守ろう	P25
方針7	生物多様性を保ち高めよう	P27

基本目標 III	安心で快適な暮らしを守ろう	P28
方針8	安心で健康に暮らせるまちをつくろう	P29
方針9	快適でうるおいのあるまちをつくろう	P31
基本目標 IV	ごみを減らして循環型社会を実現しよう	P35
方針10	資源を有効に活用しよう	P36
基本目標 V	みんなで学び行動しよう	P42
方針11	環境教育を推進しよう	P43
方針12	協働による環境保全活動を推進しよう	P47

● KPI 達成率

		項目	R5 達成率	前年度 達成率	達成率評価
基本目標 I	方針1	再生可能エネルギー等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	105.7%	104.5%	非常に順調
基本目標 II	方針5	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	97.2%	97.9%	順調
	方針6	森林整備面積	53.6%	80.0%	努力が必要
		松枯損木の伐倒処理件数	40.0%	173.3%	効果なし
		木材搬出面積	68.0%	81.5%	努力が必要
	方針7	農業の担い手への農地集積率	90.2%	94.9%	順調
	方針7	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	97.2%	97.9%	順調
基本目標 III	方針8	防災メールの登録者数	88.8%	87.1%	順調
	方針9	諏訪市防災気象情報システムアクセス数	131.2%	75.2%	非常に順調
		講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	85.3%	31.3%	順調
		文化遺産関連の保存活動に参加した人数	192.7%	157.0%	非常に順調
基本目標 IV	方針10	ごみリサイクル率	79.9%	78.4%	努力が必要
		燃やすごみ排出量	98.4%	93.8%	順調

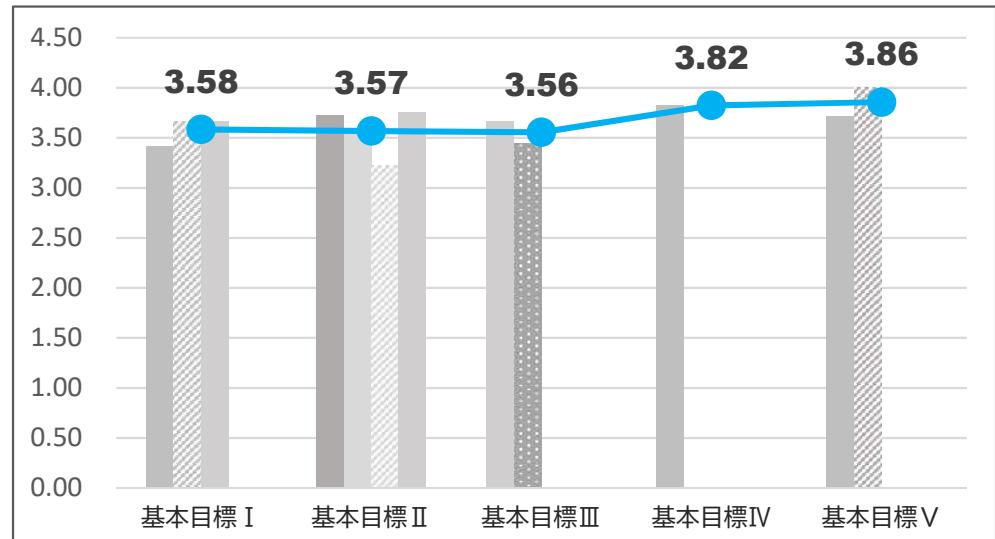
● KPI の評価区分集計

基準	非常に順調	順調	努力が必要	効果なし
数量	3	6	3	1
割合	23.1%	46.2%	23.1%	7.7%

※非常に順調…達成率100%以上、順調…達成率80%以上、努力が必要…達成率50%以上、効果なし…達成率49%以下

● 方針毎の評価と基本目標に関連する方針の評価平均

※棒グラフ…基本目標内方針毎評価 ※折れ線グラフ…基本目標関連方針の評価平均



第三次諏訪市環境基本計画の達成度をはかるKPI（重要業績指標）	計画項目			KPI（重要業績指標推移）							
	基本目標	方針	取組の方向	項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8	達成度前年比
	I 脱炭素社会を実現しよう	1. 脱炭素のまちづくりを進めよう	再生可能エネルギーの導入	再生可能エネルギーシステム等導入設置補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t	
					実績値	4,424t	4,689t				
					達成度	104.5%	105.7%				
	II 水と緑と生物多様性を大切にしよう	6. 森林・里山・農地を守ろう	5. 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	草原の維持保全対策の推進	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	目標値	140ha	145ha	150ha	155ha	160ha
						実績値	137ha	141ha			
						達成度	97.9%	97.2%			
			森林・里山の整備	森林整備面積		目標値	105.0ha	107.0ha	109.0ha	111.0ha	113.0ha
						実績値	83.97ha	57.31ha			
						達成度	80.0%	53.6%			
				松枯損木の伐倒処理件数		目標値	15本	15本	15本	15本	15本
						実績値	26本	6本			
						達成度	173.3%	40.0%			
			農地の有効活用	木材搬出面積		目標値	33.5ha	34.5ha	35.5ha	36.5ha	37.5ha
						実績値	27.31ha	23.46ha			
						達成度	81.5%	68.0%			
				農地の担い手への農地集積率		目標値	39.3%	41.7%	44.7%	47.6%	50.0%
						実績値	37.3%	37.6%			
						達成度	94.9%	90.2%			
	III 安心で快適な暮らしを守ろう	8. 安心で健康に暮らせるまちをつくろう	災害の防止	霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計		目標値	140ha	145ha	150ha	155ha	160ha
						実績値	137ha	141ha			
						達成度	97.9%	97.2%			
				諏訪市防災気象情報システムアクセス数		目標値	9,100人	9,200人	9,300人	9,400人	9,500人
						実績値	7,927人	8,172人			
						達成度	87.1%	88.8%			
		9 快適でうるおいのあるまちをつくろう	歴史的・文化的資源の保存と活用	講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合		目標値	80,200件	80,400件	80,600件	80,800件	81,000件
						実績値	60,348件	105,493件			
						達成度	75.2%	131.2%			
				文化遺産関連の保存活動に参加した人数		目標値	32%	34%	36%	38%	40%
						実績値	10%	29%			
	IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう	10. 資源を有効に活用しよう	4Rの一層の推進	ごみリサイクル率		達成度	31.3%	85.3%			
						目標値	93人	96人	99人	102人	105人
						実績値	146人	185人			
			廃棄物の適正処理の推進	燃やすごみ排出量		達成度	157.0%	192.7%			
						目標値	11,442t以下	11,479t以下	11,471t以下	11,531t以下	11,444t以下
						実績値	12,147t	11,662t			
						達成度	93.8%	98.4%			

I 脱炭素社会を実現しよう	
1 脱炭素のまちづくりを進めよう	
1	地球温暖化対策補助
2	公共施設への再生可能エネルギー導入及び検討
3	再生可能エネルギー設備の適正化
4	市内再エネ導入可能性調査
5	グリーンカーテンの推進
6	小中学校での環境教育
7	意識醸成イベント及び講演会実施
8	展示による普及活動
9	各種媒体による普及啓発活動
10	市庁舎電気の実質100%再生可能エネルギー化
11	職場環境整備促進事業補助金
12	温泉熱発電実証実験
2 ライフスタイルを変革しよう	
1	公用車の排出炭素削減
2	エコワットの貸出
3	エコドライブやスマートムーブ通勤等の推進
4	諏訪湖周サイクリングロード整備事業
5	公共交通の維持と利用促進
6	置き配バッグ活用実証実験
7	ゼロカーボンアクションの浸透
8	意識醸成ノベリティの開発と配布
9	各種媒体による普及啓発活動（再掲）
3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	
1	国土強靭化実現のためのインフラ整備
2	河川管理事業
3	防災気象情報システム運用事業
II 水と緑と生物多様性を大切にしよう	
4 泳げる諏訪湖を取り戻そう	
1	河川水質検査
2	ヒシ取りの実施
3	諏訪湖創生ビジョン推進会議による活動
4	諏訪湖浮遊ごみ回収
5	散乱ごみのない美しいまちづくり事業
6	小型合併処理浄化槽設置補助
7	諏訪湖浄化対策連絡協議会による活動
8	公共下水道接続促進
9	農薬等適正使用推進
10	団体等による美化活動支援

5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	
1	霧ヶ峰草原再生作業の実施
2	霧ヶ峰高原における特定外来生物駆除の実施
3	霧ヶ峰関連団体との連携
4	諏訪市自然環境保全条例の運用
5	霧ヶ峰高原の学生による保護及び啓発活動
6	霧ヶ峰の湿原保護のための木道整備
7	ニホンジカによる食害対策
6 森林・里山・農地を守ろう	
1	森林づくり事業（市有林）
2	森林づくり事業（団体有林等）
3	森林経営管理等推進事業
4	諏訪平土地改良区農地基盤整備事業
5	林道整備事業
6	農道・農業用水路整備事業
7	諏訪市自然環境保全条例の運用（再掲）
8	森林学習の実施と充実
9	荒廃農地化の抑制
7 生物多様性を保ち高めよう	
1	特定外来生物駆除の実施
2	生物多様性に関する情報の発信
3	有害鳥獣対策
4	外来魚被害緊急対策事業補助
III 安心で快適な暮らしを守ろう	
8 安心で健康に暮らせるまちをつくろう	
1	特定建設作業、特定工場への対応
2	自動車騒音測定と面向的評価の実施
3	公害の苦情対応
4	空間放射線の常時監視情報の共有
5	避難所等公共施設への再エネ導入
6	国土強靭化実現のためのインフラ整備（再掲）
9 快適でうるおいのあるまちをつくろう	
1	景観育成関連計画の推進
2	まちなみ景観推進事業補助
3	屋外広告物に対する指導
4	景観に対する意識啓発
5	都市公園の維持管理
6	ケヤキ並木花いっぱい事業
7	緑化推進のための苗木配布
8	歴史的、文化的資源の保存及び継承

9	空き家、空き地の適正管理推進
IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう	
10 資源を有効に活用しよう	
1	給水スポット設置
2	ペーパーリサイクル事業
3	ごみステーションにおける分別指導
4	不法投棄抑制のための啓発資材設置及び配布
5	諏訪市一斎清掃の実施
6	散乱ごみのない美しいまちづくり事業（再掲）
7	保育園、小中学校の生ごみ別回収
8	生ごみ処理機購入補助
9	草類堆肥化及び剪定木のチップ化推進
10	生ごみ処理機の利用推進（さざ波の家）
11	古紙リサイクル事業
12	多量排出事業者届出制度の運用
13	24時間資源物回収拠点場所開設
14	サンデーリサイクルの実施
15	広域でのごみ削減
16	フードドライブ等による食品ロス削減
17	放置自転車等の対策
V みんなで学び行動しよう	
11 環境教育を推進しよう	
1	広報すわでの情報発信
2	環境紙芝居
3	出前講座の実施
4	行政の意識向上
5	小中学校での環境教育（再掲）
6	森林学習の実施と充実（再掲）
7	意識醸成イベント及び講演会実施（再掲）
12 協働による環境保全活動を推進しよう	
1	連携取組体制の構築
2	ESG債券への投資

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう					
	脱炭素社会の実現のため、二酸化炭素の排出量実質ゼロを目指して、建築物の省エネルギー化、再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の大幅な削減を推進します。また、二酸化炭素の吸収源となる緑を積極的に増やす取組を推進します。					

●基本目標 I に関する KPI

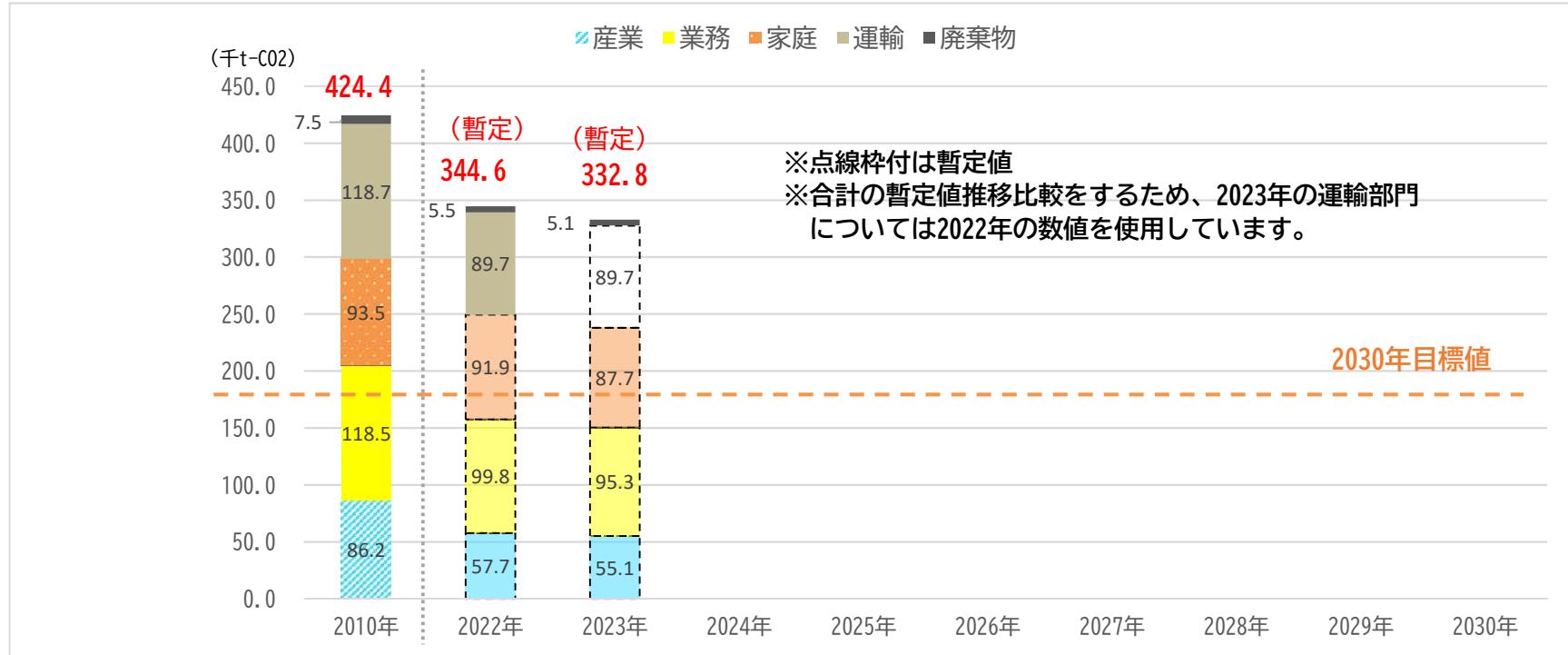
項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
再生可能エネルギー導入設置補助制度等による年間CO2削減量	目標値	4,235t	4,435t	4,635t	4,835t	5,035t
	実績値	4,424t	4,689t			
	達成度	104.5%	105.7%			

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.44	3.58			
1 脱炭素のまちづくりを進めよう	3.08	3.42			
2 ライフスタイルを変革しよう	3.57	3.67			
3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう	3.67	3.67			

考察	<p>■重要業績指標（KPI）は令和4年度から引き続き目標値を上回っており順調な進行状況と言える。</p> <p>■公共施設である諏訪市役所及び諏訪中学校にはPPA方式により太陽光発電設備を整備した。その他公共施設についても、設置可能な公共施設には太陽光発電設備の導入を進める必要があることから、調査等による導入検討を進めるとともに、エネルギー調達資金の地域内循環のためにも地元体制についても検討する必要がある。</p> <p>■令和4年度に国庫補助不採択となった市内再エネ導入可能性調査については、令和5年度再度申請し補助金を確保。調査結果を諏訪市環境基本計画へ反映させ「ゼロカーボンシティ推進戦略」が策定され、ゼロカーボンシティ実現への取組を加速させるための方向性が明確化されている。</p> <p>■ゼロカーボンアクションを浸透させるための取組として、SPOBYというスマートフォンアプリを活用し、市民等の脱炭素移動を環境配慮活動を行う店舗等が特典付与で応援する取り組みを新たに実施した。このような意識醸成、機運構築の取組は多くの方の参画が重要であることから、参加のハードルを低くするとともに、脱炭素プラスαの効果による参加意欲向上を検討する必要がある。</p>

諏訪市の温室効果ガス排出量の推移

※色付枠の数字は暫定値 (千t-CO₂)

部門別	産業	86.2	57.7	55.1					
	業務	118.5	99.8	95.3					
	家庭	93.5	91.9	87.7					
	運輸	118.7	89.7	89.7					
	廃棄物	7.5	5.5	5.1					
	合計	424.4	344.6	332.8					
2010年度比割合	-	81.2%	78.4%						
年	2010年 (基準)	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年

考察	・2022年段階で2030年BAU (19.2%削減し排出量は80.8%) とほぼ同等の削減は達成。一方で実質60%削減の目標達成には、現状の排出量を更に半減させなくてはならない。
	・今年度より温室効果ガス排出量の推計を独自推計方法としており、暫定値ではあるが早期の把握が可能となっている。2023年の電力需要実績は6月に提供予定でありその時点で2023年の暫定値も把握可能。現時点では2023年度暫定値把握前ではあるが、廃棄物部門については可燃ごみ減量による効果が表れている。
	・2023年は前年比で冬季気温が高かったことも影響してか、算出に使用する電力需要実績が5%弱減少している。

◆参考指標

諏訪市の魅力度 (目標値)	142位 (151位)	155位 (138位)	(126位)	(113位)	(100位)
市民満足度調査総合満足度 (目標値)	-				
諏訪市内事業者課税標準額平均（千円/者） (目標値)	3,101 (2,128)	(2,149)	(2,170)	(2,192)	(2,214)
年	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年

※色付枠の数字は暫定値

産業・業務・家庭部門	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
電力需要実績(MWh)	360,578	344,148							
事業者係数(t-CO2/MWh)	0.459	0.459							
各部門エネルギーの 全体に占める割合 (%)	産業	21.7%	21.7%						
	業務	43.9%	43.9%						
	家庭	32.4%	32.4%						
各部門エネルギーの 電力比率(%)	産業	62.2%	62.2%						
	業務	72.8%	72.8%						
	家庭	58.3%	58.3%						

※色付枠の数字は暫定値

運輸部門	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
旅客部門国全体排出量(t-CO2/年)	24,399.7	24,399.7							
自動車国全体登録台数(台)	66,126,633	66,126,633							
市町村別登録台数(台)	34,819	34,819							
市内排出量(t-CO2/年)	47.1	47.1							
貨物部門国全体排出量(t-CO2/年)	19,934.9	19,934.9							
自動車国全体登録台数(台)	16,324,717	16,324,717							
市町村別登録台数(台)	8,873	8,873							
市内排出量(t-CO2/年)	39.7	39.7							
旅客部門国全体排出量(t-CO2/年)	1,921.0	1,921.0							
貨物部門国全体排出量(t-CO2/年)	96.4	96.4							
鉄道国人口(人)	125,416,877	125,416,877							
市町村人口(人)	48,385	48,385							
旅客部門市内排出量(t-CO2/年)	2.7	2.7							
貨物部門市内排出量(t-CO2/年)	0.1	0.1							

※色付枠の数字は暫定値

廃棄物部門	2022年	2023年	2024年	2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年
諏訪湖周クリーンセンター可燃ごみ処理量の諏訪市排出分実績(t)	12,146.5	11,662.3							

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	1 脱炭素のまちづくりを進めよう
取組の方向	①建物の省エネルギー化 ②再生可能エネルギーの導入 ③CO ₂ の吸収源となる緑化の推進 ④積極的な情報発信

評価の推移	R4	R5	R6	R7	R8
※評価点の平均	3.08	3.42			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容・取組目標 <small>※新規又は改善した取組については下線</small>	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	地球温暖化対策補助	地中熱の活用、家庭の再エネ設備で発電した電気を蓄電する構造の定置型蓄電池の設置、電動車と自宅で電気を共有できるV2Hシステムの設置及びV2Hと同時に設置するソーラーカーポートに対する補助を実施。	太陽光発電による電力の買取価格下落と電気料金の高騰という背景もあり、太陽光発電の自己消費への変更工事に伴う蓄電池設置を後押しする結果となった。 【補助実績】 定置型蓄電池11件1,100千円、蓄電容量計93.6kW	軽EVは普及したがV2Hシステムが高額（実質車両購入額の1/2程度）ということもあり、システム導入に直結しなかった。市販車種の拡充もあり、年度末には数件の問い合わせがあった。太陽光の有効活用には蓄電・蓄エネが必要不可欠であることから、販売店との連携も含め普及を図るとともに、住宅開口部の断熱改修をメニューに加えて省エネの推進も進める。	3	3	シゼテロイカ 推進ボ 室	

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
2	公共施設への再生可能エネルギー導入及び検討	レジリエンス視点も含め、避難所となる公共施設への再エネ導入の可能性を調査。結果を基に避難所となる公共施設へオンサイトPPA方式による太陽光発電設備を導入する。	事業実施候補者により諏訪市役所及び諏訪中学校にPPA方式での太陽光発電設備を導入。部材納期遅延等により稼働は遅れているが、諏訪地域自治体として初のPPA手法での導入を実現した。 【導入実績】 諏訪市役所92kWh、諏訪中学校107kWh	他の公共施設への導入を推進すると同時に、地元事業者による実施や民間施設への導入を推進していく必要がある。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室	当事業所は太陽光発電システムを設置する。建設資材の調達に時間を要する状況だが本年度中に竣工を予定している。CO ₂ 排出の削減もあるが万が一の災害時に電力が不足した際、地域や行政と連携した活動を計画した。 →脱炭素社会実現は市民、事業者、行政という全ての関係者による取組が必要です。事業所において災害時の対応も視野に入れた再エネ導入を計画いただき感謝申し上げます。市からの情報共有や連携の依頼についてはご協力お願いします。 公共施設への設置以外の建物について、何かロードマップの様なものはあるのか。 →ロードマップではありませんが、ゼロカーボンシティ推進戦略の優先検討手法に「PPA方式による太陽光発電」を設定しており、公共施設への導入をモデルケースとして民間事業所や家庭への導入につなげることを視野に入れています。 各地域の災害時の避難所となる公共施設への太陽光発電施設導入を今後推進していくことを考えているか。 →災害時の備えにもなる太陽光発電設備の避難所への導入は、施設の残存利用期間、PPA方式による搭載可能な規模等を踏まえて検討しています。なお、令和5年度については一部避難所を含んだ公共施設へのPPA方式での太陽光発電設備導入の可能性調査を実施します。
3	再生可能エネルギー設備の適正化	諏訪市環境と再生可能エネルギー発電設備設置事業との調和に関する条例を運用し、再エネ導入推進と環境保全、安心できるくらしの確保の両立を図る。	R4.7の条例施行からR6.3まで対象となる案件はないが、事業者等から条例についての照会は複数あった。	野立て太陽光を対象とした長野県の条例が令和6年4月1日より施行となる。当市においては、特定区域（急傾斜地への設置等危険の生じる可能性のある区域）での事業について県条例の対象となる。市及び県条例を運用し、地域と調和した再エネの導入を推進する。	3	3	環境課	

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
4	市内再エネ導入可能性調査	市内における再エネ導入のポテンシャルや可能性について調査を実施。	R4年度不採択となった国庫補助に再度申請し補助金を確保。市内の再エネ導入ポテンシャルの調査を行い、結果を基に脱炭素社会実現への取組を加速させるための「ゼロカーボンシティ推進戦略」を第三次環境基本計画に追加した。	ゼロカーボンシティ推進戦略を基に、事業者の自走した取組、環境分野以外への効果を踏まえた取組を基本に推進する必要がある。 なお、多くの関係者の意識醸成やまちの機運醸成を進めるために、ソフト系事業については参画ハードルを低く設定する。	4	1	シゼテロイカ推進ボ室ン	
5	グリーンカーテンの推進	環境月間に合わせて植物の種を配布し、家庭におけるグリーンカーテン活動を推進する。	6月のロビー展にてグリーンカーテン種子の配布を行った。クールチョイスのチラシも同時に配布し、家庭内で取り組める啓発を行い、意識醸成に努めた。 【配布数】 5種類/400袋	種の配布は継続しているが、取組が配布で止まっている。R6年度からは市民等の取組状況を広く共有できる要素を追加して実施する。	4	4	環境課	市役所の入口の掲示は大変素晴らしい。動画にも工夫が見られて若い人も関心を持ちそう。学校、自治体からまずグリーン化を進めたい。緑と花、自然なイメージを諏訪市に付けたい。 (緑のブランド化) →みどりのカーテンは植物で日射を遮るという効果だけではなく、緑化によるイメージ向上の効果もあります。また、令和6年度からは、家庭や事業所でみどりのカーテンに取り組んだ様子を募集しており、機運醸成につながるみどりのカーテンという取組を広めていきたいと考えています。
6	小中学校での環境教育	小中学校の総合の学習の時間を中心に、脱炭素要素を導入し、児童生徒の地球温暖化等に関する意識向上を図る。	諏訪中学校においてはゼロカーボン講座で職員が講師となり、市の取組状況や背景等について生徒に対して説明。文化祭での成果発表では、環境と経済という両方の視点が必要という、脱炭素社会実現に必要な要素の学習につながった。 【実施結果】 教諭への説明…全10校、授業での実施…1校、すわ未来創造子どもゆめプロジェクトでの説明…1回	教育現場への負担を増やさずに効果的な環境教育を実施する手法の検討を引き続き進めていく。	3	3	シゼテロイカ推進ボ室ン	
7	意識醸成イベント及び講演会実施	くらしいきいきエコフェスタにおいて、大学生を講師として児童向けの脱炭素イベントを開催し、意識醸成を図る。	公立諏訪東京理科大学小川准教授及び学生を講師に、電池をテーマにしての親子実験教室を開催した。 【実施結果（参加者）】 市内小学校親子16組、講師参加大学生10名	大学生を講師としてすることで、楽しみながら脱炭素を学ぶ講座になったことに加え、学生の地元への関与機会提供にもつながっている。脱炭素意識醸成とともに地元人材確保につながる取組として認識し、大学と連携した取組を継続していく。	4	4	シゼテロイカ推進ボ室ン	

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
8	展示による普及活動	市役所ロビー、すわっチャオ、民間事業者の店舗等でパネル等の展示を行い、来場者に対しての意識啓発や普及活動を実施する。	【市役所】 6月…環境基本計画の周知 2月…PPA方式の周知及び市民参画事業の結果報告 随時…1階階段前壁スペースでの脱炭素パネル展示（PPA方式周知、イベント実施周知） 【すわっチャオ】 モニターでの脱炭素短編動画の放映 【民間事業者】 諏訪信用金庫…店舗モニターでの脱炭素短編動画の放映 八十二銀行…店舗でのパネル展	ゼロカーボンシティ宣言賛同事業者の店舗においての展示は、市役所等公共施設来庁者以外への周知につながることから、実施場所の拡大について検討していく。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進 ボ 室	諏訪市の資源ごみの受付業務において社内受付場所にて展示物やイベントを行い、資源ごみを持ち込まれた来場者の方々に対しての意識啓発や普及活動の場として活用してほしい。 →今後の課題・取組の方針にも記載していますが、実施場所の拡大について検討していたところです。協働での普及活動実施についてご相談させていただきます。また、他の事業所等においても同様のお話がありましたら、ゼロカーボンシティ推進室まで共有をお願いします。
9	各種媒体による普及啓発活動	広報すわ、HP、SNS等の媒体を活用し、脱炭素社会に向けた意識啓発や普及活動を実施する。	各種媒体での発信活動を実施 【広報すわ】 ゼロカーボン特集（6月号）、脱炭素コラム（隔月） 【市公式youtube】 ゼロカーボンクエストと題した短編動画公開 【情報発信】 公式LINE及びメルマガによる情報配信 【庁内】 庁内掲示板にて、取組内容共有	興味のない方に関心を持ってもらうことを基本とすることが必要。脱炭素分野は難しい内容が多いことから、内容が専門家向けの様な難解なものにならぬよう注意する必要がある。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進 ボ 室	広報すわ6月号のゼロカーボンシティ推進戦略は大きな見出しへ目につきやすく良い。これからも続編でもう少し分かり易く（地球の温暖化がどんどん進むと超大型の台風がいつも上陸して大きな災害を起こす、南極の氷がとけて低地には住めなくなる、森林火災が起きて地球が砂漠化してしまう等）具体的に書いて市民一人ひとり緊張感を持って日々の生活をしてもらいたい。 →今年度はゼロカーボンシティ推進戦略についての特集を掲載しました。今後どのような取組を行なっていくのかを広く市民に周知することはできましたが、改めて地球温暖化による脅威に立ち戻った周知を行うことも効果的と考えます。参考材料としてより効果的な記事内容を検討します。

主な取組		実施内容・取組目標 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
10	市庁舎電気の実質100%再生可能エネルギー化	市役所庁舎内で使用する電力を実質100%再生可能エネルギーに転換。 <u>この取組を公共施設全体に拡充し、市役所全体で温室効果ガス排出量の削減を目指す。</u>	R5年度1年間で、庁舎内で使用された約52万kwhの電力に相当する温室効果ガス排出量を削減した。 また、市役所庁舎に加え、R5年4月1日より、新たに23の公共施設の電力について、実質再生可能エネルギーへの転換を実施した。	レジリエンス強化の視点から、市役所庁舎において、太陽光由来の再生可能エネルギーの地産地消をR6年度開始する。また、新たに7公共施設の電力について、実質再生可能エネルギーへの転換を図る。	5	4	総務課	
11	職場環境整備促進事業補助金	工業者における省エネルギー設備導入を促進し、工業の省エネ化を推進する。	省エネルギー設備の導入補助について、企業訪問、補助金ガイドブック、HPへの掲載を通して積極的な企業周知を行った。 【補助実績】 0件	市内事業者は、昨年に引き続き長野県の「中小企業エネルギーコスト削減助成金」を積極的に活用している。市では、制度の継続的な実施と共に、長野県の制度を活用できない案件を支援していく。	1	1	商工課	
12	温泉熱発電実証実験	事業者と連携し温泉熱を活用した発電の実証実験を実施。温泉熱発電の導入可能性を検討する。	R5年度においては、新型機の開発を実施中。そのため発電実績はゼロであった。	現在新型機を開発中。開発段階において不具合等もあり開発に時間をしている。完成後に実証実験を行い、費用対効果・源湯の状況も含め導入の可否を慎重に検討する。	2	2	水道局	<p>地中熱と温泉熱の利用促進はできないか。 →温泉熱については、改良機を現在開発中です。完成後に実証実験を再開予定です。</p> <p>地中熱については、ポテンシャルとして把握しているものの、規模や技術的に時間の必要な取組です。</p> <p>このような状況から熱利用については中長期的な取組として位置付けています。</p>

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	2 ライフスタイルを変革しよう
取組の方向	①省エネルギーの推進 ②公共交通等の利用促進 ③ごみの減量化

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.57	3.67			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	公用車の排出炭素削減	公用車についてEV、PHEV、HV等への切換えを検討及び実施。	軽貨物自動車1台について、EV車への切換えを実施した。また、Uグループと連携し、公務における小型EVの試行活用を行い、選定車種拡大の可能性について検討材料を得ることができた。	総務課管理車両は、市の公用車の一部に過ぎないので、今後、EV車等への切換えを市役所全体の取組に発展させていく必要がある。これを踏まえ、R6年度は、担当課所管の車両2台について、EV車への切換えを実施する。	4	3	総務課	
2	エコワットの貸出	一般家庭で電化製品の消費電力等を測定できる機器を貸出、数値の見える化によって節電意識を高める	希望者に対して機器の貸出を実施 【貸出実績】 4件	貸出機器は古い製品であり、電気料金算出単価の修正ができないものである。また、冷蔵庫を代表とする家電は数年前から消費電力表示機能が標準的に装備されている。よって現有機器の貸出自体は継続するが、積極的な取組としては終了とする。	2	2	環境課	ネット等で調べられる時代。何を見れば参考になるのか、推薦となるものを教える（知らせる）方が良い。 →エコワットについての積極的な取組は終了となりますが、省エネにつながる情報の発信や媒体等の紹介については引き続き検討し実施していきます。
3	エコドライブやスマートムーブ通勤等の推進	交通安全にもつながるエコドライブやスマートムーブ通勤について、市民職員等幅広い関係者に周知し、意識啓発を行う。	市職員向け交通安全研修においてエコドライブ、スマートムーブについて安全運転にもつながる旨の説明を実施した。 【研修参加者】 計46名	市民に対してのエコドライブ周知が不足している状況。R6年度の取組として、自動車を保有したり運転を始める新社会人に対し、安全運転とエコドライブに関する啓発チラシの配布を予定している。	2	2	シゼテロイカ推進ボ室	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
4	諏訪湖周サイクリングロード整備事業	諏訪湖周自転車活用推進計画に基づき、諏訪湖周サイクリングロードを整備。自転車活用の促進につなげる。	R5年度末で整備は完了。R6年4月1日より供用開始となった。	今後は、諏訪湖周自転車活用推進協議会により、交通環境の整備充実や観光新との連携、また、自転車ネットワークの構築などを検討していく。	5	5	都市計画課	<p>諏訪湖の利活用はトップマターで進める必要がある。産業と観光、文化、その中でも諏訪湖のアクティビティは重要。他団体とも連携して大きなイベントも考えたい。話題性が重要。若い人も巻き込みたい。</p> <p>→意欲的な観光事業者や市民団体等の取り組みを支援することにより、「諏訪湖サイクリングロード」を活用した公民連携の取組みをめます。</p> <p>諏訪湖サイクリングロードが完成したのでおおいに活用していただきたい。2市1町が共働きやすいと思うので活用して欲しい。活用方法を大人も考えるが、高校生、中学生、小学生、親、留学生等に自分だったらどのように活用するか考えて提案してもらうなど工夫してほしい。</p> <p>→公立諏訪東京理科大学や諏訪実業高等学校文化ビジネス研究講座、諏訪市内の小中学校への出前講座などを活用し、利活用の提案内容を検討していただきます。</p> <p>諏訪湖周サイクリングロード整備事業が完成し通勤時での自転車活用推進を今後活用できなか。交通整備充実や観光推進協との連携で在住している市民は勿論観光客も含め、月1回サイクリングデータを位置づけ自転車ネットワークの推進構築を図れると良い。</p> <p>→サイクリングロードの全線開通後、通勤通学時には一定数の利用者もいますが、今後、諏訪湖周自転車活用推進協議会において利用者率の調査などを実施したり、目標値なども定め利用者率向上を目指すよう検討しています。</p>
5	公共交通の維持と利用促進	より利用しやすい交通体系の構築、持続可能な社会を実現するため、地域公共交通計画を策定した。AIオンデマンド交通の導入やかりんちゃんバスの見直しを行い、持続可能な公共交通体系の再構築を行う。	地域公共交通計画を基に持続可能な公共交通体系を模索し、AIオンデマンド交通の運営事業者を選定した。	AIオンデマンド交通のテスト運行やかりんちゃんバスの再編など公共交通の再構築を予定している。	4	4	女地 共域 同戦 参略 画・ 課男	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	置き配バッグ活用実証実験	置き配バッグ活用実証実験の結果を公表、共有するとともに、県の地球温暖化防止活動推進センターの主催するながの再配達削減プロジェクトに参画し、新たな取組を推進する。	県のプロジェクトについては、先行実施者として学生に対しての置き配事業に対する実施方法提供や事業所での宅配荷物受取に関する周知を行った。なお、実証実験結果を公表したこと、市民から置き配の方法について問合せが複数件あったことから、実証実験参加モニター以外への周知も進んだと想定。東京キー局のニュース番組でも扱われ、先進的取組を行う自治体というアピールにもつながった。	置き配バッグ活用実証実験については再度配布を行うかという問い合わせもあるが、実証実験において効果を把握できしたことから継続しての実施はせず、置き配に限らない再配達削減手法の普及を県プロジェクトとともに実施していく。	5	5	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室	
7	ゼロカーボンアクションの浸透	関係者の脱炭素社会実現に対する意識醸成と行動の社会実装を実現するため、デコ活（ゼロカーボンアクション等）の普及事業を実施する。	SPOBYというスマートフォンアプリを活用し、市民等の脱炭素移動を環境配慮活動を行う店舗等が特典付与で応援するデコツーリズムinすわと題したイベントを実施。市民のスマートムーブ実施と共に、店舗における環境配慮意識の向上を図った。 【実施概要】 実施期間：R6年2月1日～29日 参加者：433名 参加事業者：6者 活動結果：自動車移動2,300km相当分のCO2排出抑制	本取組は多くの方の参画により、まちの機運が醸成されることを期待するものである。参加のハードルを低くするとともに、脱炭素プラスαの効果による参加意欲向上が重要である。	3	-	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室	エコウォーキングのアプリ活用は続けて欲しい。諏訪市で推進することなので職員は全員登録して活用していただきたい。全員ダウンロードするだけで433という数字ではなくなると思う。 →令和6年度も同様の事業実施を予定しています。また、実施主体である市役所内部においても庁内掲示板等を活用し職員への周知、参加を促していきます。
8	意識醸成ノベリティの開発と配布	市内事業者との協働により、廃材を活用した環境配慮ノベリティを製作。保全活動参加者等への参加御礼を含めた配布に活用する。	市内事業者CHAANY、商工課、総務課とも連携してノベリティの開発を実施。楽器や建具に使用した木材の端材からコースターを製作し、環境配慮活動等参加者への配布を開始した。 【配布イベント】 諏訪湖浮遊ごみ回収作業、ゼロカーボン実験教室 【開発物品】 コースター、組み立て式ベン立て、SDGsバッジ、フォトフレーム	開発したノベリティはインセンティブの一つとしてのものであるが、同時に環境配慮という意図を伝える必要がある。市内事業者や関係課所とともに活用方法含めて検討を継続する。	4	-	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
9	各種媒体による普及啓発活動（再掲）	広報すわ、HP、SNS等の媒体を活用し、脱炭素社会に向けた意識啓発や普及活動を実施する。	各種媒体での発信活動を実施 【広報すわ】 ゼロカーボン特集（6月号）、脱炭素コラム（隔月） 【市公式youtube】 ゼロカーボンクエストと題した短編動画公開 【情報発信】 公式LINE及びメルマガによる情報配信 【庁内】 庁内掲示板にて、取組内容共有	興味のない方に関心を持つてもらうことを基本とすることが必要。脱炭素分野は難しい内容が多いことから、内容が専門家向けの様な難解なものにならぬよう注意する必要がある。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室ン	

基本目標	I 脱炭素社会を実現しよう
方針	3 気候変動に適応したまちづくりを進めよう
取組の方向	①自然災害リスクの低減 ②農業生産への影響の低減 ③健康への影響の低減

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.67	3.67			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	国土強靭化実現のためのインフラ整備	大雨の出水に備え、緊急自然災害防止事業により河川や水路の整備を実施する。	市内各地区における浸水対策のため、河川改修や道水路嵩上げ工事を実施した。 【R5年度整備】 河川改修等 6箇所 約620m	緊急自然災害防止対策事業債を継続して活用しながら財源を確保するとともに、関係者と協議・調整をしながら緊急性・必要性を考慮しつつ、効果的な河川や水路等の整備を行っていく。	4	4	建設課	
2	河川管理事業	市内の山間地より流入する河川の浚渫や堆積土砂の除去を行い、流路確保と河川保全を実現する。	市内各地区における河川等の流下能力確保や環境保全のため、浚渫等を実施した。 【R5年度整備】 河川の浚渫 3河川 水路の堆積土砂除去 18箇所	各地区からの要望事項に配慮しながら、計画的かつ効率的な河川の浚渫を実施していくとともに、水路や側溝泥上げにおいては地元地区との協働を念頭に効果的な事業を行っていく。	4	4	建設課	
3	防災気象情報システム運用事業	地区や家庭での自然災害に備えた避難行動を助けるため、防災気象情報システム「すわそらサイト」の運用を実施。	R4年度から表示方法を見やすいものに改善した防災気象情報システム「すわそらサイト」を市民の身近な情報源として引き続き発信している。 広報すわの特集記事やチラシを作成・配布して広く市民へPRした。また、消防団分団長会議を通じて各地区へ周知した。	日頃からの防災、災害発生時の生命を守る情報源として閲覧されるよう、市民・関係者等へPR活動を継続する。	3	3	危機管理室	告知継続。災害があつてからでは遅い為、知る・見る機会を増やす必要有り。ステッカー等自宅に貼つてもらうのも良いのでは。 →サイトへのアクセス数は大幅に増加しており、引き続き効果的な周知・活用となるよう取組を進めています。 良い活動で価値あるサイトであるが、どこまで人が知っているのかがポイント。商工会議所も巻き込んで企業のBCPにもつながる内容なので展開したい →関係機関と連携を図り幅広い発信を考えながら周知します。

基本目標

II 水と緑と生物多様性を大切にしよう

諏訪市を代表する自然環境である諏訪湖と霧ヶ峰、それらにつながる自然環境の保全に取り組みます。

●基本目標Ⅱに関するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
霧ヶ峰高原草原再生作業（雑木処理）実施面積累計	目標値	140ha	145ha	150ha	155ha	160ha
	実績値	137ha	141			
	達成度	97.9%	97.2%			
森林整備面積	目標値	105.0ha	107.0ha	109.0ha	111.0ha	113.0ha
	実績値	83.97ha	57.31			
	達成度	80.0%	53.6%			
松枯損木の伐倒処理件数	目標値	15本	15本	15本	15本	15本
	実績値	26本	6本			
	達成度	173.3%	40.0%			
木材搬出面積	目標値	33.5ha	34.5ha	35.5ha	36.5ha	37.5ha
	実績値	27.31ha	23.46			
	達成度	81.5%	68.0%			
農業の担い手への農地集積率	目標値	39.3%	41.7%	44.7%	47.6%	50.0%
	実績値	37.3%	37.6%			
	達成度	94.9%	90.2%			

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.53	3.57			
4 満げる諏訪湖を取り戻そう	3.73	3.73			
5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう	3.43	3.57			
6 森林・里山・農地を守ろう	3.22	3.22			
7 生物多様性を保ち高めよう	3.75	3.75			

考察

■昨年度目標に対して大幅に高い実績となった松枯れ虫による被害を阻止する松枯損木の伐倒処理件数については一転して低い達成率となった。しかしながら、前年度よりも対象面積を広げた状況下において、伐倒処理件数が少なくなっていることから、被害自体は減少していることがわかる。今後もこの状況が継続されるかを注視していく必要がある。

■霧ヶ峰高原の草原再生事業はコロナ禍前の規模に戻して実施できた。また、学生による霧ヶ峰高原の保護及び啓発活動についても、令和4年度に委嘱した信州大学の学生に加え、千葉大学・東邦大学の学生にも委嘱し、より多くの学生に関わってもらうことができた。実施規模の確保はできているものの、担い手の不足という課題解決を継続検討する必要がある。

■諏訪湖の浮遊ごみ回収作業は、昨年同様カヤックに乗船して楽しみながら作業を実施した。今年度はウォーターサーバーを設置し、廃材から作成したノベリティを配布することにより、諏訪湖以外の環境保全への関心も高めることができた。市民に興味を持ってもらえる企画を入り口として、地球の環境保全にまで関心を向ける取組となつた。

意見の対象	意見	回答
基本目標2方針5	近年バックカントリースキー愛好家の増加の中で、車山山頂から湿原方面の斜面を滑る人が増えている。この部分も天然記念物に含まれているが、表示がわかりにくい。立ち入り禁止区域であることが冬季にも分かりやすい表示をするなど、早急な対策が必要である。	課題については認識しており、HP等の各種媒体での告知を強化するとともに、現地の案内表示の改善などを進めたいと思います。
基本目標2方針6	地元の財産区で山の見回りをすると、本当に倒木が多い。全部は不可能だが、せめて幹線道路脇のものを地元団体と協力して運び出して欲しい。危険で見た目も悪い。市で薪にして市民に配布しているが処理が無理なら、地元で薪にして売る=ただの山になっている負の財産を活用しようとして頑張っている市民団体に活用してもらうとか。活用を工夫して欲しい。	森林の維持管理は、本来、森林所有者の責任となっております。しかし、管理されず手入れが行き届いていない森林が存在するのが現状です。そのため、手入れが行われていない森林を整備することを目的に、国は「森林經營管理制度」を創設しました。当市でも、令和4年度から森林經營管理制度により、四賀地区から森林整備を開始しております。今後も順次、市内の森林の整備を進めて行く予定です。

基本目標 **II 水と緑と生物多様性を大切にしよう**

方針 **4 泳げる諏訪湖を取り戻そう**

- 取組の方向
- ①諏訪湖と流入河川の水質保全
 - ②諏訪湖の景観保全と美化
 - ③諏訪湖の生態系を回復させる

評価の推移	R4	R5	R6	R7	R8
※評価点の平均	3.73	3.73			

【評価点】

- 5…十分取り組まれている [100%以上の進捗状況]
- 4…かなり取り組まれている [80~99%の進捗状況]
- 3…ある程度取り組まれている [50~79%の進捗状況]
- 2…あまり取り組まれていない [30~49%の進捗状況]
- 1…取り組まれていない [30%未満の進捗状況]

主な取組		実施内容 <small>※新規又は改善した取組については下線</small>	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	河川水質検査	諏訪湖に流入する河川の水質検査を実施し、生活排水の適正処理が行われているか等を確認する。	定期的な水質検査を実施すると共に結果をHPに公開。市内河川の水質は良好である。 【検査回数】 年2回（5月、11月）	定期的な検査の継続が必要。市内の準用河川及び普通河川をローテーションで検査する。	4	4	環境課	
2	ヒシ取りの実施	TOYOTA SOCIAL FES!!として信濃毎日新聞社と共に開催によるイベントを実施。参加者とともにヒシ取りを行い、景観、船舶運航の対策をするとともに、参加者の意識醸成につなげる。	ヒシ取りイベントを開催したが雨天のためヒシ回収はできず、学習会のみ実施。諏訪湖のヒシについて参加者が学ぶ機会とした。 【参加者】 TOYOTA SOCIAL FES!! 91人	R6年度も7/6（土）に同イベントを企画している。引き続き官民連携して、諏訪湖の環境改善を推進していく。	3	3	環境課	ヒシ取りイベントは企画次第で何度も開催して良い。市民を巻き込んで特に子供を巻込めば、その親、その家族に伝わる。 →ヒシ取りイベントは、諏訪市だけではなく、湖周の自治体や県などが主体となり行っています。昨年度は諏訪市立小中学校に在学している小学校5年生～中学校3年生を対象にした、「子どもゆめプロジェクト（通称「ゆめプロジェクト」）」のメンバーもヒシ取り作業に参加しています。湖上の作業であるため、子どもの参加等事故のリスクも考慮しながらの募集とはなりますが、今後もより広く知っていただくための開催方法を検討してまいります。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
3	諏訪湖創生ビジョン推進会議による活動	県が主導する会議の構成員として、ヒシ取り、ごみ調査といった活動に参加するとともに、その活動を外部に伝えていく。	9/9にはごみ調査活動に職員3名が参加した。環境美化を図るとともに諏訪湖畔に打ち上げられたごみの傾向を調査する活動を実施。11月には調査結果を外部に発信する「川ごみサミットin諏訪湖」を開催し、職員1名が出席。 【ごみ調査分析結果】 プラスチック製品由来のごみが約9割。劣化し細くなつたものが多く諏訪湖畔に漂着することが課題。	引き続き県と協力して活動を行っていく。今後は流入河川の上流地域にも参加を呼び掛ける予定。	3	3	環境課	ボランティア活動に参加してもらう企業、団体を募集し、実施の写真画像を紹介し、継続し「きれいな諏訪湖」をアピール。諏訪湖に流れる前の川や周辺の清掃も含めて。 →今後流入河川の上流地域にも参加を呼びかけるなど、収集範囲を広げる予定でいます。募集の方法など引き続き検討していきます。 諏訪湖創生ビジョンにもっと連携すべき。県の動きを待っているだけではダメ。主体的にイベントに参加。また同会議も案内を出して参画してもいい。 →諏訪湖は県の管理であり、複数の自治体にまたがるものであるため、連携することの重要性を感じています。諏訪湖創生ビジョンには引き続き積極的に参加していきます。また、推進会議など他の団体への案内等検討していきます。
4	諏訪湖浮遊ごみ回収	参加者を募集し、諏訪湖及び流入河川河口付近にてカヤックに乗船し浮遊ごみの回収作業を実施。諏訪湖の環境改善とともに参加者の意識醸成を行う。	9/16（土）に作業を実施。楽しみながら環境保全活動を行うことができ、参加者の満足度は高かった。また、ペットボトルの配布を取りやめウォーターサーバーを設置し、廃材から作成したノベリティを配布することにより、諏訪湖のみならず環境保全への関心を高めることができた。 【参加実績】 9/16 53人	R5年度は時期を早めたため、R4度の倍近いごみを回収することができた。この取組方法は効果的と考えるため、今後も継続して実施していく。R6年度も9/7に実施予定。	5	5	環境課	素晴らしいイベント。頻度も上げてい。知らない人もいるので周知の方法を工夫したい。例えば企画の段階で新聞社を入れて記事にしてもらい、そこで参加も募るなど工夫次第。 →まずは知っていただくことが大切と考えています。令和4年度は広報すわへの掲載などの周知した際は、募集開始から開催日までが2週間だったのですが、令和5年度は1ヶ月前にプレスリリースするなど周知、募集期間を延ばしました。令和6年度も開催前、開催後にプレスリリース、広報すわ、HP、LINE等様々な方法により、企画を知つていただくこと、そして開催時期や頻度についても引き続き検討していきます。
5	散乱ごみのない美しいまちづくり事業	霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心に不法投棄されたごみの回収作業を実施し、不法投棄の連鎖発生を阻止する。	年75回のパトロールにより、不法投棄されたごみの回収を実施した。また、不法投棄物回収現場公開をプレスリリースし、県内夕方のニュース番組で特集されたことで、多くの方に問題を認識させる機会となった。 【回収量】 可燃ごみ396kg、不燃ごみ125.4kg	引き続き不法投棄の多い霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心にパトロールを実施する。引き続き広報すわ特集記事を掲載予定。また、メディアの活用なども含め、市民の不法投棄への関心を高め、環境美化につながる取組を実施する。	4	4	環境課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	小型合併処理浄化槽設置補助	下水道への接続が困難な地域における小型合併処理浄化槽設置に対し補助を実施。生活排水の適正処理を推進する。	市民に対し、小型合併処理浄化槽設置に対する補助を行った。 【補助実績】 7人槽1基 414千円	引き続き小型合併処理浄化槽設置補助を行い、生活排水の適正処理を推進する。	4	4	環境課	
7	諏訪湖浄化対策連絡協議会による活動	LCV-FMを活用し、浄化啓発CM放送を実施。広域での意識啓発を実施する。	LCV-FMを活用し、浄化啓発CM放送を実施。10/1「諏訪湖の日」に合わせて浄化啓発CM放送を実施した。	諏訪湖の課題は広域に関係することから、県や他市町村・諏訪広域連合との連携を継続していく。	3	3	環境課	
8	公共下水道接続促進	99%を超える下水道計画区域内普及率を誇る既設インフラの効果を十分發揮するため、接続可能区域内における下水道接続を促進する。	未接続者に対して状況把握のための意向調査を郵送及び訪問して聞き取りを実施した。 【結果】 回答率35.2%（54名中19名が回答） 回答者19名中4名が接続	地形上の制約、接続義務者の年齢や経済的状況等を勘案すると困難が予想される案件が多いが、継続的に説明等を行う。	3	3	水道局	
9	農薬等適正使用推進	農家に対して農薬の適切な使用の指導及び監視を実施する。	年2回水稻育苗教室の開催に併せて、指導会を開催した。 【開催実績】 4月、6月	県やJAなどの各関係団体の意向を伺いながら、継続的に指導会を開催し、農家に対して農薬の適切な使用の指導及び監視を進めていく。	4	4	農林課	昨年は水田への被覆肥料散布が問題になったが、今年はどうでしょうか。水田からマイクロプラスチックが諏訪湖に流出し、下諏訪側はすごかったとのこと。 →全国的に水田の被覆肥料は省力化を目的に使われてますが、肥料の中に追肥分として後から溶け出す成分にプラスチックの殻が使用されているため、それが分解されず河川などへ流出してしまうことが問題となっています。流出を減らすための取り組みとして、長野県や農協などにより排水時に流れ出ないようにするための指導や啓発活動を実施するともに、肥料資材の試験にも取り組んでおります。
10	団体等による美化活動支援	清掃ボランティアに対してごみ袋を提供するなどし、民間団体による美化活動を推進する。	各地区、個人、団体が清掃活動を行うにあたり、要望に応じた枚数のボランティア袋及び草類袋を提供した。	今後も各地区や多くのボランティア団体による自発的な清掃活動を後押ししていくため、継続的なボランティア袋及び草類袋の提供を行う。	4	4	環境課	

※終了済みの取組

主な取組		実施内容	実施結果総括	最終年度評価	主担当課
-	守屋山トイレ整備事業	観光地としての魅力向上のために自然環境に配慮したバイオトイレを整備し、汚水の適切な処理を実現する。	守屋山水呑場に自然環境に配慮した快適で衛生的なバイオトイレを整備。汚水の適切な処理を実現した。整備事業は終了。令和5年度からは観光課により適切な維持管理を行っていく。 【整備施設概要】小便器2、男女兼用洋式1、多目的洋式1、女性専用洋式1	4	農林課

基本目標 **II 水と緑と生物多様性を大切にしよう**

方針 **5 自然豊かな霧ヶ峰を保全しよう**

取組の方向	①草原の維持保全対策の推進 ②霧ヶ峰の生態系の維持 ③歩道等の利用施設の維持管理
-------	--

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.43	3.57			

【評価点】

5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	霧ヶ峰草原再生作業の実施	霧ヶ峰の森林化を抑制し、草原の保全を実現するため、関係団体及び市民等と共に、雑木処理等の作業を実施する。	R5年度からはボランティアの募集も再開し、関係団体とともにコロナ禍以前の規模で、春と秋の2回開催することができた。 【参加者人数】 247名（R4年度 19名）	引き続き関係団体と連携しながら、活動を続けるとともに、活動を通して、草原保全のための意識を高めていく。	4	3	環境課	<p>草原の保全の効率的な方法について、研究・試行を進めていただきたい。現在野焼きは行われていないが、皮肉なことに昨年の大規模火災の後はきれいな草原が再生している。例えば阿蘇や奈良若草山などに、安全な野焼きの方法など参考事例はないか。</p> <p>→次ページにて一括回答</p> <p>高原の雑木処理、笹刈りを積極的に行う必要がある。火入れなども行った方が良いのではないか。</p> <p>→次ページにて一括回答</p> <p>霧ヶ峰の野焼きは自然保護の一番の方法だと思うので、危険回避は優先事項だと思うが続けて欲しい。黒と緑のコントラストは綺麗な景観であり野焼きの後景色を見るために来る観光客数は増えているようだし、山菜も沢山出て沢山の地元民は蕨とりに出かけた。野焼き自体も見てる人にとっては非日常で見る価値があるようだ。</p> <p>→次ページにて一括回答 (回答次ページに続く)</p>

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	霧ヶ峰草原再生作業の実施 (回答続き)							<p>霧ヶ峰高原の本来あるべき姿は森林化を抑制し草原の保全と維持管理。そのために昔から土地維持管理組合等の組織を挙げての作業が継続して行われてきたことと農耕用の草刈りで田畠を潤してきたことが挙げられる。しかし、農耕も機械化されたり化学肥料の改良で草刈り等も必要なくなり自治体等の働きかけで雑木処理や草刈り等地道に行われなんとか維持されている。今後定期的に十分な計画の火入れ作業の実施を希望する。</p> <p>→昨年発生した山火事は火入れ作業によるものではありませんが、火入れについても同様に火災の危険性があります。火入れの効果自体は把握していますが、前述の危険性もあり、市が主体となっての実施は予定していません。草原の保全の効率的な方法については、県と情報を共有しながら、研究・検討を続けていきます。</p>
2	霧ヶ峰高原における特定外来生物駆除の実施	霧ヶ峰自然環境保全協議会と共に、高山植物の生育を阻害する特定外来生物駆除作業を実施する。	オオハンゴンソウ駆除作業を2回実施した。 【実施実績（日付、人数、結果）】 (7/12 58人1,980kg、8/1 39人1,240kg)	広大な霧ヶ峰高原の外来生物駆除には関係者の連携が必要。県や関係団体との連携による作業を実施していく。	3	3	環境課	<p>特定外来植物の駆除作業は、回数や人数に限りのある中で大規模に進めるのは難しいと思うが、少しずつ行ってもなかなか繁殖は抑えられないよう思う。まずビーナスラインと主要道路沿いの駆除を集中的にできないか。</p> <p>→回数や人数に限りのある中で、県が事務局である霧ヶ峰環境保全協議会の計画に基づいて、効果的な方法や場所を模索・研究し、今後も県や関係団体と協力しながら駆除を実施したいと考えています。</p>
3	霧ヶ峰関連団体との連携	霧ヶ峰自然環境保全協議会（霧ヶ峰みらい協議会）、霧ヶ峰草原再生協議会へ参加、情報交換を行うとともに、外来生物駆除等作業に参加する。	各協議会に参加して、情報交換を行い、課題を共有しながら、外来生物駆除等作業に参加した。（全5回）	広大な霧ヶ峰高原の保全には関係者の連携が必要である。特に担い手である協議会に継続参加し、連携した取組を継続していく。マンパワーの不足は引き続きの課題である。	4	4	環境課	
4	諏訪市自然環境保全条例の運用	無秩序な開発等による自然環境への影響を阻止するため、条例に沿った指導及び対応を行う。	対象となる大規模開発はなかったものの、問い合わせに対して情報提供を行った。	引き続き、問い合わせに対しては情報提供を行う。開発行為に対しては、他条例と合わせて適切な指導及び対応が必要となる。	3	3	環境課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	霧ヶ峰高原の学生による保護及び啓発活動	学生ボランティアによる研究を兼ねたパトロールを実施すると共に、その結果を踏まえた啓発活動を行う。	千葉大学・信州大学・東邦大学の学生41名に委嘱し、7・8月のハイシーズンに国天然記念物霧ヶ峰植物群落のパトロールを実施した。来訪者への天然記念物の周知、立入の監視や注意喚起等を行い、霧ヶ峰の保護及びその意識醸成につなげた。	コロナ禍を挟んで学生の参加体制や来訪者の動態の変化などがあり、霧ヶ峰の保護および啓発について今後より効果的な取組を検討していく必要がある。	3	3	生涯学習課	地元の学生を取り込んでいけたら良い。参加学生が諏訪を好きになって移住などにつながればと思う。 →大学生によるパトロール活動は60年以上の長い歴史があり、大学の植物同好会など自然に関心のある学生や霧ヶ峰に関心のある3大学の学生を霧ヶ峰自然保護指導員として委嘱していますが、地域の人々も巻き込んでいく必要性は感じており、手法を検討していくたいと思います。参加学生の中には卒業後も霧ヶ峰に来訪したり、諏訪や県内で自然保護に関する仕事や活動に従事する方もおり、諏訪への愛着の形成に一定の効果も有していると考えています。
6	霧ヶ峰の湿原保護のための木道整備	観光客等多くの方が訪れる湿原への立入を阻止、保全するための木道を継続整備する。	平成17年の設置から老朽化が進んでいる八島湿原北側の木道を、自然環境整備支援事業補助金（県補助）を活用し改修した。 事業額：5,962,000円 補助額：2,682,000円 改修延長：75.7m	現在老朽化により優先的に改修している八島湿原部分のめどがつき次第、新規設置の要望がある車山湿原部分に着手するよう計画している。劣化箇所の修繕と新規設置について優先順位を見極めながらバランスよく進める必要がある。	5	5	生涯学習課	
7	ニホンジカによる食害対策	ニホンジカによる高山植物の食害を阻止するため、県及び地権者と共に電気保護柵設置作業等に協力した。	県が主体で行う電気保護柵設置作業等に協力した。	今後も県に協力し継続的に作業を実施。高山植物の食害を阻止していく。	3	3	環境課	

基本目標 **II 水と緑と生物多様性を大切にしよう**

方針 **6 森林・里山・農地を守ろう**

取組の方向
①森林・里山の整備
②農地の有効利用

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.22	3.22			

【評価点】

5…十分取り組まれている	[100%以上の進捗状況]
4…かなり取り組まれている	[80~99%の進捗状況]
3…ある程度取り組まれている	[50~79%の進捗状況]
2…あまり取り組まれていない	[30~49%の進捗状況]
1…取り組まれていない	[30%未満の進捗状況]

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	森林づくり事業 (市有林)	諏訪市市有林の5年間の施業（主伐、間伐）内容を計画してある、諏訪市森林経営計画に基づき、市有林の整備を実施。健全な森林管理を実現する。	蓼の海公園近くの市有林にて、諏訪市森林経営計画に基づき、カラマツの伐採を行った。 【事業実績】 6.17ha	R6年度以降も、R5年度実施箇所の続きの市有林を整備していく予定。	4	4	農林課	
2	森林づくり事業 (団体有林等)	各山林関係団体の経営安定化と積極的な森林整備を促進するため、国・県の補助に加えて嵩上げ補助を実施する。	国・県の補助に加え、諏訪市嵩上げ補助を実施し、各山林関係団体の森林整備を促進した。 【補助実績】 5団体7,853,500円	例年秋頃に各山林関係団体から翌年度事業のヒアリング（翌年度の施業希望内容や補助金活用の有無の確認等）を行っており、今後も団体の状況を確認しながら進めていく。	4	4	農林課	
3	森林経営管理等推進事業	森林整備が行き届いていない個人有林などについて、市が代わって森林経営・管理を実施する。また、松くい虫被害防止のため、松枯れ巡視を実施する。	四賀桑原地区の個人有林の森林整備を実施した。また、松枯れ巡視等を実施し被害防止のため枯損木を伐採した。 【事業実績】 森林整備7.47ha 11,701,800円 枯損木伐採6本	四賀地区の個人有林で手入れが進んでいない森林について、引き続き当事業を実施していく。 今後も松枯れ巡視を実施して、松くい虫被害防止する。	3	3	農林課	
4	諏訪平土地改良区農地基盤整備事業	競争力の高い稻作地帯を目指し、生産効率の向上や維持コストの削減を図り、農業経営が持続できる環境を整備する。	換地計画書の作成を行い、農地の有効利用や収益性の向上、担い手への農地集積・集約化を進めるとともに、水田の区画整理や用水路のパイプライン化、排水路やポンプ施設の新設や改修、農道の整備等の実施を進めている。	地域の担い手と連携した農地の大区画化や用排水路管理環境整備、用水量効率化等の耕作条件改善を行うことで、より効率的な営農が可能となり、国の目標達成と競争力の高い農業地帯の実現に向けた基盤の構築を目指す。	3	3	農林課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	林道整備事業	林道の舗装新設とともに、土砂崩落を防止し、安全性を高めるため、法面への擁壁設置を実施する。	①林道日向入山線及び②林道扇平南峠線で土砂崩落を防止のために、法面への擁壁設置及び水路工事を行い安全性を高めた。また、③林道腰越大原線では舗装を行った。 【事業実績】擁護壁①6m 水路②46m 舗装③30m	その他の林道においても、必要箇所の舗装や法面への擁護壁設置により安全性を高めていく。	3	3	農林課	林道整備は古くからおこなわれてきた事業だと思う。実際に整備を実施する工事事業者などを交えてこれまでの歩みとこれからを整理する活動があるっても良いかと思う。（諏訪湖創生ビジョンで諏訪湖浚渫の歴史を聞いてみるなど） →林道整備は地元からの要望に基づき実施しています。また、地元や工事事業者と過去の状況や今後の活用方法を考えながら整備を行っています。今後も地元の意見を聞きながら、工事事業者と協議し進めています。
6	農道・農業用水路整備事業	市内農地での安定した耕作のため、農道及び農業用水路を整備する。併せて、揚水ポンプ設置に対する補助を実施する。	下金子地区を含む5地区において水路工事を実施。また、①赤沼区、②福島区、③神宮寺農地管理組合へポンプ設置補助を実施。 【ポンプ補助実績】 ①192,000円 ②34,000円 ③357,000円	地元からの要望を確認しながら、農道及び農業用水路の整備や揚水ポンプ設置の補助を行っていく。	3	3	農林課	
7	諏訪市自然環境保全条例の運用（再掲）	無秩序な開発等による自然環境への影響を阻止するため、条例に沿った指導及び対応を行う。	対象となる大規模開発はなかったものの、問い合わせに対して情報提供を行った。	引き続き、問い合わせに対しては情報提供を行う。開発行為に対しては、他条例と合わせて適切な指導及び対応が必要となる。	3	3	環境課	
8	森林学習の実施と充実	講座等を活用し、諏訪市が貴重な自然資源を有していることを伝える。また、効果的な森林学習実施につながるよう、森林体験学習館で使用する道具の更新を行う。	自然と遊ぶつどいを4回実施。他係とも共催し、参加者の募集に努めた。 【講座参加実績】 延べ75名、第1回24名、第2回21名、第3回20名、第4回10名	参加者の減少、固定化が見られるので、引き続き他係との共催を模索する等、多くの方に講座に参加いただけるよう努める。	4	4	生涯学習課	
9	荒廃農地化の抑制	農地の耕作放棄による荒廃を防ぎ、健全な農業の継続を実現するため、農業委員等と連携し、土地所有者と農地を探すとのマッチングを行う。	農業委員会による年2回の農地パトロールを実施し、耕作放棄地所有者へ意向調査を行った。 【開催実績】 8月、11月	耕作放棄地解消を図るため、耕作放棄地所有者と農地を探している人とのマッチングの体制づくりを進めていく。	2	2	農林課	荒農地が目立つ。市として地球温暖化対策として積極的に市民農園としての活用の検討を。 →遊休農地を活用したレクリエーション農園については、土地所有者の意向を確認の上、希望者に借りていただけるよう調整して参ります。

基本目標 **II 水と緑と生物多様性を大切にしよう**

方針 **7 生物多様性を保ち高めよう**

取組の方向
①生物多様性の理解促進
②生物多様性保全・再生の推進

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.75	3.75			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	特定外来生物駆除の実施	市民と共に上川等に繁殖する特定外来生物駆除作業を行うことで、駆除を推進すると共に、参加者が現場に出て体験するという効果的な意識醸成を実現する。	県や住民ボランティアとの協働により、上川や霧ヶ峰高原にて外来生物駆除作業を実施。 【実施実績（日付、場所、人数、結果】 アレチウリ駆除（6/17上川17人31kg） オオハンゴンソウ駆除（7/12霧ヶ峰58人1,980kg、8/1霧ヶ峰39人1,240kg、8/8諏訪湖畔9人220kg）	特定外来生物の駆除には多くの労力と長い時間が必要。毎年継続的な実施を行うとともに、広報等で市民への周知を行う。	3	3	環境課	
2	生物多様性に関する情報の発信	ロビー展示、広報紙を活用し、特定外来生物を中心とした生物多様性に関する情報を発信し、意識醸成を実現する。	6月のロビー展にて、特定外来生物の情報発信を行った。同時に6/17に予定をしていたアレチウリ駆除作業の募集チラシも配布し、作業への参加の周知も行った。実施結果についても2月のロビー展示にて公表した。	引き続き広報すわ5月号、6月号にて特集ページを記載。LINEやメルマガ等を活用し、継続的に幅広く発信をしていく。	4	4	環境課	
3	有害鳥獣対策	諏訪市獣友会や諏訪市鳥獣被害対策実施隊による有害鳥獣駆除の他、諏訪市鳥獣被害対策協議会に対し、鳥獣駆除及び侵入防護柵設置の支援を行う。	諏訪市獣友会や諏訪市鳥獣被害対策実施隊により有害鳥獣駆除を実施した他、各種団体に対し侵入防止柵設置の支援を行った。 【捕獲・設置実績】 捕獲頭数シカ483頭、イノシシ16頭 侵入防止柵L=1,150m	有害鳥獣駆除を継続実施する他、各種団体からの要望を確認し、侵入防止柵の設置支援を進めていく。	4	4	農林課	
4	外来魚被害緊急対策事業補助	2市1町で諏訪湖漁協へ補助金を交付し、ブラックバス、ブルーギル等外来魚による漁業被害の防止を図る。	2市1町で諏訪湖漁協へ補助金を交付し、諏訪湖漁協による外来駆除事業を実施した。 【駆除実績】 71,140匹（2675.2kg）	諏訪湖漁協からの意向を確認しながら、2市1町で諏訪湖漁協へ補助金を継続交付し、今後も外来魚駆除を進めていく。	4	4	農林課	

基本目標 Ⅲ 安心で快適な暮らしを守ろう
市民が安心・安全に、そして快適に暮らせる生活環境の確保に取り組みます。

●基本目標Ⅲに関するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
防災メールの登録者数	目標値	9,100人	9,200人	9,300人	9,400人	9,500人
	実績値	7,927人	8,172人			
	達成度	87.1%	88.8%			
諏訪市防災気象情報システムアクセス数	目標値	80,200件	80,400件	80,600件	80,800件	81,000件
	実績値	60,348件	105,493件			
	達成度	75.2%	131.2%			
講座等アンケートで「諏訪市の歴史や文化に誇りを感じる」と回答した割合	目標値	32%	34%	36%	38%	40%
	実績値	10%	29%			
	達成度	31.3%	85.3%			
文化遺産関連の保存活動に参加した人数	目標値	93人	96人	99人	102人	105人
	実績値	146人	185人			
	達成度	157.0%	192.7%			

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.56	3.56			
8 安心で健康に暮らせるまちをつくろう	3.67	3.67			
9 快適でうるおいのあるまちをつくろう	3.44	3.44			

考察

■諏訪市防災気象情報システムへのアクセス数が大幅に増加した。親しみやすい名称と見やすい表示への変更がアクセス数の増加につながったと考えられる。この他の事業についても同様に、市民に親しみやすく、分かりやすいものに改善することにより大きな効果が得られると考えられる。
 ■避難所等公共施設への再エネ導入については、令和4年度に実施した可能性調査の結果により、諏訪市役所及び諏訪中学校に太陽光発電設備と蓄電設備等を導入することができた。次年度以降も関係機関と連携を取りながら長期的な視点で導入を進めていくことが必要となる。
 ■空き家利活用に関するまち歩きも含めた講座を新規で実施し啓発に力を入れた。一方で、まちなみ景観推進事業補助、ケヤキ並木花いっぱい事業など、新規参加者が増えないことが引き続きの課題となっている。景観育成の推進について引き続き市民の意識醸成に努めていく必要がある。

基本目標	Ⅲ 安心で快適な暮らしを守ろう
方針	8 安心で健康に暮らせるまちをつくろう
取組の方向	①水源の確保と保全 ②公害等の発生防止 ③災害の防止

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.67	3.67			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80～99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50～79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30～49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	特定建設作業、特定工場への対応	大きな騒音等の発生する特定建設作業及び特定工場について届出の徹底と必要に応じた指導を実施し、住民の安心できる生活環境を確保する。	提出された各届出について内容を確認し、必要に応じて指導等を行った。 【届出実績】 特定建設作業 騒音2件、振動2件 特定施設 騒音1件、振動3件	届出が出てきた場合には、周囲への配慮等指導を行う。	3	3	環境課	建設業者も扱い手不足や世代交代の時期に差し掛かっていたり、届け出等に漏れが出ることもあると思う。提出されたなった案件などはあるか? →届け出等に漏れはありませんが、届け出がされている、もしくは届け出の義務がない案件への苦情の対応はありました。必要に応じて対応していきます。
2	自動車騒音測定と面的評価の実施	法に基づき道路交通センサスの調査区間を基本とした幹線道路を中心に自動車騒音測定及び面的評価を実施し、その状況を把握する。	自動車騒音測定及び面的評価を実施し、その状況を把握、市HPにて結果を公表した。 【実施状況】 岡谷茅野線7.5km	継続して道路騒音状況の把握を行う。	3	3	環境課	
3	公害の苦情対応	大気汚染（野焼き含む）、水質汚濁（油の流出含む）、騒音、振動、悪臭などの公害に対応し、生活環境の保全に努める。	大気汚染、水質汚濁、騒音、振動などの苦情に対し迅速に対応し、改善指導を行った。 【対応件数】 大気汚染23件、水質汚濁13件、騒音13件、その他6件（振動、悪臭等）合計55件+公害以外13件	引き続き個別の対応をしていくが、立場の違う住民の相互理解が必要となることから、意識変革を含めた広報等を行う。	4	4	環境課	
4	空間放射線の常時監視情報の共有	諏訪合同庁舎における常時監視結果を提供する。	関係課への情報提供はR5.6月で終了した。なお、R5年中も異常値の検出はなかった。	取組は終了とするが、異常が認められる場合には速やかに情報共有を行う。	4	4	環境課	
5	避難所等公共施設への再エネ導入	避難所となる公共施設において、災害時の電源使用を可能とする再生可能エネルギー導入の手法について検討し導入を行う。	新たな手法（PPA）により、諏訪市役所及び諏訪中学校に太陽光発電設備と蓄電設備等を整備した。また、新たな避難所設置検討案件について、再生可能エネルギー設備整備も加えて協議・検討を始めた。	公共施設への再エネ導入は、多額な投資が必要で老朽化に伴う施設再編も考慮する必要があるため、短期間のうちに再エネを配備することは難しいが、PPAを含め引き続き関係機関と連携を図りながら進めて行きたい。	4	4	危機管理室	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
6	国土強靭化実現のためのインフラ整備（再掲）	頻発する集中豪雨による水害等自然災害に対し、安全・安心の確保を実現するためのインフラ整備を実施する。	市内各地区における浸水対策のため、河川改修や道水路嵩上げ工事を実施した。 【R5年度整備】 河川改修等 6箇所 約620m	緊急自然災害防止対策事業債を継続して活用しながら財源を確保するとともに、関係者と協議・調整をしながら緊急性・必要性を考慮しつつ、効果的な河川や水路等の整備を行っていく。	4	4	建設課	

基本目標	Ⅲ 安心で快適な暮らしを守ろう
方針	9 快適でうるおいのあるまちをつくろう
取組の方向	①景観育成の推進 ②市街地緑化の推進 ③歴史的・文化的資源の保存と活用

評価の推移 ※評価点の平均	R4	R5	R6	R7	R8
	3.44	3.44			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	景観育成関連計画の推進	「諏訪市都市計画マスターplan」「諏訪市緑の基本計画」「諏訪市景観計画」の取組を推進する。	各種計画に基づく事業を実施し、併せて景観に関する周知や指導を実施した。	計画に沿って現状の把握を行うことで課題の整理等を行う。必要に応じて計画の見直しを実施し、終期までの計画の実現を目指す。	3	3	都市計画課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
2	まちなみ景観推進事業補助	市内で活動する市民等で構成される団体等が、沿道や水辺、緑地などにおいて樹木・花等の植栽やその管理にかかった経費の一部を補助。市民による景観づくりを推進する。	市民団体等による景観づくり活動に対し経費の一部を補助し、市民による景観づくりを推進することができた。 【補助実績】 5件172千円（実施団体における事業費総額482千円）	引き続き支援を継続していくが、活動している市民団体等が固定化されている現状から、新たな団体等の開拓に向けた啓発活動を行う必要がある。	3	3	都市計画課	<p>沿道や水辺、緑地などの植栽整備等について、県道などの植栽は更新時に撤去する、新規の場合は植栽を設けない設計にしている事例も多くあるようだ。今後更新の際には、担い手の有無や団体の意見も含めて検討していく必要があるかもしれません。</p> <p>→当事業については地元地域の自発的な活動に対しての助成制度となります。道路事業や公園事業における植栽については、景観形成としての役割を担っている場合もございますので、必要に応じて事業者に助言をしていきます。</p> <p>諏訪市の街並み景観を象徴する湖畔公園や並木通り、文学の道等、地域自治会や有志の皆さんに委ねている感が強い。樹木や花の種等を時期的に配布することも大切だが、環境課や環境推進会議が積極的に働きかけ、街並み景観事業を推進していくことを強く望む。特に街中や中心地の並木通りは諏訪よいてこや高島城への主要通りでもあり、大手町や近隣の皆さんの方だけでは、街並み景観を推進していくことは無理だと思う。なんとかならないか。</p> <p>→当事業については地元地域の自発的な活動に対しての助成制度となります。公園や街路樹の管理につきましては、市で適正に管理していくとともに、地域の皆様のご協力をいただき管理協定を締結し、公民で連携して対応していきます。</p>
3	屋外広告物に対する指導	新規設置や更新の際の申告漏れの無いよう、現状把握と広告物パトロールを実施。指導、対応に加え、手続きの促進を行う。	定期的にパトロールや通知を実施し、適切な管理が行われていない広告物などに対して是正指導を行った。	今後もパトロール及び更新漏れの確認を実施し現状把握に努め、条例の基準を逸脱することがないよう指導と対応をしていく。	4	4	都市計画課	
4	景観に対する意識啓発	景観条例と景観計画及び住民協定などの周知、建築等行為者への指導を実施する。	建築行為などに対して諏訪市の景観づくり基準を案内し、景観に対する周知と指導を行った。また、景観に关心のある市民組織に対し複数回の話し合いを実施し、意識を啓発した。	引き続き建築行為などに対して諏訪市の景観づくり基準を案内し、景観の保全・育成を図っていく。	4	4	都市計画課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	都市公園の維持管理	みどり豊かな都市公園と良好な景観形成のため、都市公園の適切な維持管理を行う。	会計年度任用職員や委託業務等により、樹木の剪定や漂着物清掃除去等、都市公園として適切な維持管理が出来た。	会計年度任用職員の雇用について、今後も優秀な人材の確保に努めるとともに、委託化やP-PFIなど検討を進める。	3	3	都市計画課	緑地帯の管理はだれが行うのか？公園管理は大変で経費もかかるのでは？ →緑地の管理につきましては、市や民間のほか、地区との協定により公民連携で行っている場所があります。公園管理につきましては、会計年度任用職員により市で直営で行ったり、専門業者への業務委託や、地区との連携による管理など様々な方法で行っております。また、湖畔公園においては県の負担金、遊具の更新やサイクリングロードに整備については国の補助金等を活用し、財源を確保した上で事業を実施しています。 草刈りや剪定など公園管理を行う中でトイレ清掃や一部公園の管理を業務委託などをすることで効率的に進めています。また経費が特にかかる遊具、施設の更新については長寿命化対策事業により国庫補助を活用し進めています。
6	ケヤキ並木花いっぱい事業	民間団体による植栽整備等を支援することで、市内の緑化とともに快適な景観実現を推進する。	花いっぱい事業として定着をしている。区画を受け持つ方は継続して植栽や管理を行ってくれている。また、それぞれに特色があり見て楽しめるなどの評価をいただいている。 【区画利用状況】 全46区画中39区画利用(空7区画)	管理担当者が決まらず空いている区画があり募集を継続しているが、空いている区画の管理に苦慮している。方策の検討が必要。	3	3	都市計画課	
7	緑化推進のための苗木配布	苗木の配布を行うことで、市街地の緑化を推進すると共に、快適な景観を実現する。	前年に苗木の樹種や本数の要望調査を行い、4/21に諏訪湖イベントひろばにて公共施設及び各地区へ配布を行った。 【配布実績】 公共施設：8団体 157本 各地区：5地区 232本	来年以降もR5年度と同程度の事業が行えるよう努め、市街地の緑化を推進し快適な景観が実現できるよう努めていく。	3	3	農林課	
8	歴史的、文化的資源の保存及び継承	歴史・文化的資源を保存すると共に、その価値を見える化し伝えることで、市民のシビックプライド醸成と共に観光資源としての活用につなげる。	既設の文化財説明板の維持や霧ヶ峰の天然記念物パトロールにおける植生保護や見学ルートの案内板設置を通じて、文化財の価値や重要性について啓発を行った。また指定文化財展を開催して市民の身近に貴重な文化遺産があることを紹介し、地域の魅力発見の増進につなげた。	老朽化が進んだ説明板の把握と計画的な更新を進める必要がある。近年の情報発信媒体の発達と普及に対応すべく、音声案内ガイドの導入に取り組む。	4	4	生涯学習課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
9	空き家、空き地の適正管理推進	GISによる対象物件の把握を進めデータを共有し、活用希望者による有効活用につなげる。 <u>空家利活用に関する講座の実施を通し、啓発を行う。</u>	「諏訪市空家等対策計画（第2期）」を策定した。また、まち歩きもも含めた連続講座を開催する等、啓発活動に努めた。	法改正に合わせて「特定空家等判断基準マニュアル」の改正が必要。GISを引き続き活用し、適正管理及び利活用を推進する。 地域おこし協力隊を任用し、空き家の掘り起こしと利活用を推進する。	4	4	都市計画課	空き家は、所有者不明など複雑な問題により管理が難しい。地区でも植栽が道路に伸び放題で通行の妨げになったり、ハチの巣や小動物の住み家となつて近隣の生活にも支障が出ている。植栽の伐採も所有者の許可が必要とのことで区でも手が出せない状況。GISの有効活用以外にも空き家の近所の方々からの情報収集も含め、市役所と区の情報交換を行うなど連携が必要だと思う。 →市内の全区長宛てに「空き家アンケート」の実施、及び空き家の適正管理等を説明した冊子「あなたの空き家大丈夫ですか？」を全区へ配布するなど、区と連携した取組を推進しています。その効果として、近年は住民だけでなく区長や役員からの相談が急増しています。

基本目標	IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう 資源大量消費型の社会から、資源循環型の社会へ転換するための取組を進めます。
------	--

●基本目標IVに関するKPI

項目	年度	R4	R5	R6	R7	R8
ごみリサイクル率	目標値	23.1%	22.9%	22.5%	22.2%	22.0%
	実績値	18.1%	18.3%			
	達成度	78.4%	79.9%			
燃やすごみ排出量	目標値	11,442t以下	11,479t以下	11,471t以下	11,531t以下	11,444t以下
	実績値	12,147t	11,662t			
	達成度	93.8%	98.4%			

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.76	3.82			
10 資源を有効に活用しよう	3.76	3.82			

考察	<p>■KPIの燃やすごみ排出量は目標値に届かないものの、令和4年度と比較して大幅な減少となった。市民の分別意識向上が図られている結果であることから、引き続きごみの減少とともに資源リサイクルを推進していくことが重要である。</p> <p>■連携協定に基づく取組として市内公共4施設への給水スポットの設置は継続。新たに3施設に新規設置。マイボトル活動は市民誰もが取り組みやすいことから、意識醸成の取組を事業者等に拡大していくことがより効果的と考えている。</p> <p>■諏訪市一斉清掃を第一生命と連携して実施した。アプリを使って清掃参加者の歩数を寄附金に換算しこども食堂に寄附する取組を行い、環境保全から福祉分野への貢献へと発展させた良い例となった。</p>
----	---

意見の対象	意見	回答
基本目標4方針10	廃食油の回収状況はどうだったか。南真志野区での状況はどうだったか。	家庭から出る廃食油については、市役所環境課窓口及び湖南公民館で引き取り、業者に引き渡していますが、令和5年度は1,901kg (2,066ℓ) を業者に引き渡しました。なお、環境課窓口及び湖南公民館にお持ち込みいただいたものを引き取っていますので、南真志野区での回収状況というのは把握していません。

基本目標 IV ごみを減らして循環型社会を実現しよう

方針 10 資源を有効に活用しよう

取組の方向
 ①4 Rの一層の推進
 ②廃棄物の適正処理の推進
 ③ポイ捨て・不法投棄対策

評価の推移	R4	R5	R6	R7	R8
※評価点の平均	3.76	3.82			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	給水スポット設置	公共施設への給水スポット設置によりマイボトル活動を推進し、循環型社会及び脱炭素社会実現に向けた意識啓発を実施。	一部施設については冷却型を導入。また、民間宿泊施設においても施設利用者向けにペットボトル飲料水の代替品として給水サーバーを導入したり、店舗利用者のマイボトルへの給水を行うサービスを開始する等、取組の広がりがあった。 【設置施設】 諏訪市役所、駅前交流テラスすわっチャオ、霧ヶ峰自然保護センター、諏訪市観光案内所、（※以下追加施設）諏訪湖間欠泉センター、諏訪市保健センター、諏訪市総合福祉センター	マイボトル活動は市民誰もが取り組みやすいことから、意識醸成の取組を事業者等に拡大していくことがより効果的。効果的かつ事業者に負担の少ない取組方法を検討していく。	5	5	シゼテロイカ 推進ボ 室ン	
2	ペーパーリサイクル事業	乾式オフィス製紙機「ペーパーラボ」を使用し、行政事務において発生した使用済用紙を廃行内で再生。再生紙を行政事務の他、意識醸成活動等に活用する。	使用済用紙53.6万枚から、33.6万枚の新たな紙を再生（R5実績）。また、古紙の回収再生は委託により、障害者就労移行支援事業所のさざ波の家の利用者が市役所内で従事しており、障がい者就労支援に寄与している。	市役所においてペーパーレス化が急速に進行すると考えられ、ペーパーラボへ投入する紙の不足による再生紙の減少が懸念される。また、CO2実質排出量ゼロである当該再生紙を意識醸成活動にどう結び付けていくかが今後の課題と認識している。	3	3	総務課	
3	ごみステーションにおける分別指導	各地区的衛生役員による住民のごみ出し分別指導を実施し、正しい分別の実現と住民自らの分別意識を向上させる。	各地区においては、ステーションへの立会等自主的な取組が行われている。この他に職員が以下のとおり分別指導を実施した。 【職員実施内容】 実施期間：R5.5月～7月 実施日数：10日 実施ごみステーション数：80か所 分別指導内容：資源化の促進、地区名記入依頼、証紙シール貼付確認等	分別指導により、紙類の混在が多数あることが明らかになった。また、ステーションによって排出マナーの違いも見られた。今後も衛生嘱託員と連携しながらマナーの向上を図る。	4	5	環境課	前年評価が5であったが評価点が4になっているのはなぜか。 →分別指導自体は毎年積極的に行っておりますが、令和5年度の分別指導においては、さらに細かく確認したところごみの中にリサイクル可能な紙類の混在が多数確認できました。新たな課題が確認でき、成果という面において5の評価には至らないと判断しました。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
4	不法投棄抑制のための啓発資材設置及び配布	不法投棄を抑制するため、「不法投棄禁止看板」及び「ごみポイ捨て禁止のぼり旗」を設置並びに希望者に対して配布する。	市民や地域の環境美化推進委員に看板やのぼり旗の配布を行った。 【配布実績】 看板27枚/のぼり旗154枚	今後も希望者には配布し、不法投棄やポイ捨ての抑制に努めていくとともに、他の取組を含めて環境への意識醸成を実施していく。	4	4	環境課	
5	諏訪市一斉清掃の実施	春秋に市内全域において一斉清掃を実施。生活環境の改善とともに、参加者の意識醸成を図る。また、民間企業と連携した取組も実施する。	諏訪湖畔・各地区等で実施した。春は5/28に実施したが、秋は当日大雨のため中止とした。 第一生命と連携し、アプリを使って清掃参加者の歩数を寄附金に換算し、こども食堂に寄附する取組を行った。 【実績】 春：22団体435名参加（諏訪湖畔）	今後も春・秋の開催を継続し、民間企業や地区の方とも協力しながら環境美化活動を推進する。	4	4	環境課	
6	散乱ごみのない美しいまちづくり事業（再掲）	霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心に不法投棄されたごみの回収作業を実施し、不法投棄の連鎖発生を阻止する。	年75回のパトロールにより、不法投棄されたごみの回収を実施した。また、不法投棄物回収現場公開をプレスリリースし、県内夕方のニュース番組で特集されたことで、多くの方に問題を認識させる機会となった。 【回収量】 可燃ごみ396kg、不燃ごみ125.4kg	引き続き不法投棄の多い霧ヶ峰、上川通勤バイパス、有賀峠を中心にパトロールを実施する。引き続き広報すわ特集記事を掲載予定。また、メディアの活用なども含め、市民の不法投棄への関心を高め、環境美化につながる取組を実施する。	4	4	環境課	
7	保育園、小中学校の生ごみ別回収	保育園、小中学校から排出される生ごみを別回収し、生ごみの減量化、堆肥化を推進する。	回収した生ごみは全量堆肥化した。 【R5年度実績】 収集日：287日 収集量（小中学校）：32.863 t 収集量（保育園）：13.958 t	食べ残しを減らすよう呼びかけを行ったり、メニューの工夫を依頼したりするなど、引き続き生ごみの減量化を推進していく。	4	4	環境課	
8	生ごみ処理機購入補助	生ごみ処理機の購入費の補助を行うことで、燃やすごみ排出量の削減を実現する。	補助制度利用は好調である。 【R5補助金交付申請者】107名 【R5補助金交付額】3,958,500円	補助制度を継続し、家庭から出る生ごみのさらなる減量を推進する。	5	5	環境課	生ごみ処理機による減量化はごみを出す量と重さが減り助かっているが、燃やすのはもったいないので堆肥に利用できないか。（畑やプランターのない人は肥料になるのにもったいないと思ったため） →おそらく生ごみ処理機の残渣を回収して、それを必要としている方に配布するということを想定されていると思いますが、現状では生ごみ処理機の普及により、燃やすごみ量を大きく削減することに注力しているところでありますので、今回いただいたご提案はその次の段階であると考えております。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
9	草類堆肥化及び剪定木のチップ化推進	草類等を焼却処分するのではなく、新たな価値として有効活用することで、燃やすごみ排出量の削減を実現する。	堆肥化及びチップ化により資源の有効活用がでており、燃やすごみ量を抑制することができている。 【草類の堆肥化】 R5年度実績 840t 【剪定木等のチップ化】 R5年度実績 297t	【草類の堆肥化】 草類の堆肥化はコストが高いことから、新たな施策の検討が必要。 【剪定木等のチップ化】 チップの活用方法などを市民へPRし、さらなる活用を促す。	4	4	環境課	資源の有効活用及び燃やすごみの抑制を目的に、剪定木等のチップ化や草類の堆肥化を行っているが、再生可能な資源とするためには、収集・運搬・管理にコストがかかり、またリサイクルするにあたり化石燃料を多く使ってしまえば結果として温室効果ガスの排出が多くなってしまう。せっかく加工した堆肥も、高齢化による担い手不足や人手不足による農業人口の減少により需要が減っているのも現状。今後はエネルギーとして利用できる方法などの検討が必要だと思う。 →草類堆肥化に代わる施策について、委員がご指摘のとおりバイオマス発電や熱利用といった方法も考えられます。今後の検討課題としてさらに研究をしてまいります。
10	生ごみ処理機の利用推進（さざ波の家）	さざ波の家に設置された大型生ごみ処理機の活用を推進し、燃やすごみ排出量の削減を実現する。	R5年度も生ごみ処理機の利用者は増加した。 【R5新規利用者】 14名	導入から年数が経過し、時々不具合が発生している。保守期限もR8年度末のため、今後について検討していく必要がある。	3	3	環境課	より生ごみ減量のために設置場所の増及び24時間持ち込み可能なシステムの導入を。 →現在の大型生ごみ処理機に代わる施策に向けて、小型のスマートコンポストの実証実験を行いました。実験結果としましては課題も見つかりましたが、メーカー側との対話は継続すると同時に、スマートコンポスト以外の施策についても研究を進めてまいります。 生ごみ処理機の購入補助は必要だと思うが、各家庭にというより生ごみ処理機を置いてくれる場所を積極的に増やす活動をしていくことが大切ではないか？ →生ごみ回収の拠点として、処理機を置く場所を増やすことは、燃やすごみ減量化に有効な施策であると思いますが、拠点に生ごみを持ち込むことについて、できない、面倒という家庭もあると思いますので、各家庭での生ごみ処理機普及も同じく有効な施策と考えます。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
11	古紙リサイクル事業	新聞紙、雑誌・書籍、ダンボール、紙パック、その他の紙の分別を推進し、紙類の資源化の向上を図る。	トイレットペーパーと古紙を交換する「古紙回収イベント」や、大型細断機による機密文書資源化を実施した。 【古紙回収イベント実績】 実施回数：3回 収集量（その他の紙）：1,875kg 収集量（紙パック）：23,928枚 【大型細断機実績】 処理量：19.6t	古紙回収イベントは好評いただいているが、燃やすごみの袋の中に紙類がまだ多く出されているため、古紙回収イベントなどを継続的に実施し、紙類分別の意識醸成を図る。 大型細断機は保守期限が切れるため廃止し、月に1度の機密文書無料回収に切り替え、資源化を継続する。	4	3	環境課	
12	多量排出事業者届出制度の運用	多量排出事業者届出の提出を求めることにより、事業者の計画的な取組みを把握し、事業系一般廃棄物の削減を推進する。	【R5年度多量排出事業者】 年間で18t以上の事業系一般廃棄物の排出事業者：15社（増減なし）	コロナ禍が終了し経済活動も活発になってきているため、多量排出事業者に対しては、訪問等によりさらなる事業系ごみの減量を喚起していく。	3	3	環境課	
13	24時間資源物回収拠点場所開設	通常収集日の排出が難しい市民に対応し、正しい分別排出を推進する。	資源物常設ステーションとして、林金属工業、信州タケエイ、南信美装で受け入れている。 そのうち下記は24時間資源物排出可能となっている。 ・林金属工業：紙類 ・信州タケエイ：紙類、ペットボトル、缶類	市民への積極的な周知を展開し、利便性の向上を図る。	4	3	環境課	ペットボトルのフタについて、これはアイデアだが諒訪市を回収場所にできないか。私の調べたところでは近隣で回収しているのは松本市のみ。価値がなくなってきたているのは承知だが、意識の啓蒙という意味ではやる価値は大きくある。 →現在、ペットボトルのフタは「他のプラスチック」として収集しています。諒訪市役所を回収場所とした場合、捨てに来た皆さんからすれば、何か別の用途に有効活用されると考えるのが通常と思われますが、現実的にはそうはならないというところが問題と思われます。

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
14	サンデーリサイクルの実施	日曜日に市内スーパーにて分別回収を実施。利便性からリサイクル意欲を向上させるとともに、イベント実施によるアピールを行う。	R4までと実施方法を変更したため、収集量、持込人数とも減少した。 【R5年度実績】 実施日：6/4、7/2、8/6、9/10 収集量：312.3kg 持込人数：145人 実施店舗：西友城南店、西友湖南店、いちやまマート諏訪店、オギノ諏訪店	現在、独自に収集している店舗もあり、また常設の資源物ステーションがあるため、利便性は以前より向上している。イベントのあり方について検討が必要と考える。	3	3	環境課	現状のやり方では効果は出ない。スーパーは各々普段から実施している。リサイクルの意欲向上、イベント実施をするのであれば違うやり方を検討すべき。 →一括回答 市内スーパーにて分別回収を実施とのことだが、城南とかいちやまマート、オギノ店という限られた地域のみ。豊田方面とか大和地区などいろいろな地域で行うことが必要なのは。 →サンデーリサイクルの今後のあり方については、労力に見合った効果という部分において、課内でも見直しの意見も出ているところです。今まで実施していないところで実施することも含め、どのようなやり方が効果的なのか考えたいと思います。
15	広域でのごみ削減	湖周広域での燃やすごみ協働処理を行うと共に、その量の削減を広域連携により実施する。	湖周行政事務組合と構成市町で定期的に情報交換を行い、また各市町でのごみ減量の取組により、燃やすごみを削減することができた。 【R5年度燃やすごみ量】 11,662t（R4年度比96.0%）	湖周地区全体の燃やすごみ量は減少しており、当市の燃やすごみ量も家庭系、事業系とも減少している。ごみ減量が頭打ちにならないよう、家庭系、事業系ともさらなる減量に向けた施策を検討し、推進していく必要がある。	4	4	環境課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
16	フードドライブ等による食品ロスの削減	廃棄してしまう食品を有効活用することで、ごみの量を削減すると共に、食料の確保に困る方の支援を実現する。	○市主催フードドライブの実施 開催日 6/28、12/13 場所 諏訪市役所ロビー 結果 寄贈者数：55名 数量：517点 重量：369kg ほかに県主催のフードドライブに協力（2回）	「生活に困窮している家庭への支援」及び「食品ロスの削減」の観点から、市主催で「フードドライブ」を継続実施するとともに、他の団体・機関等が開催できるように水平的な展開についても推進する。	3	3	社会福祉課	開催日、開催場所を増やしてみてはどうか。お金の支援もそうだが、食べずに捨てるのは未だに多いのが現状。参加団体、企業を募り実施すればより効果が期待できる。 →一括回答 活動がマイナーな気がする。もっと広報や新聞を使って大きくアピールしたい。そのニーズはあると思う。 →本市では平成28年に諏訪圏域で最も早くフードドライブを開催し、現在まで継続して取り組んでいます。その間、諏訪圏域、県はもとより、民間団体にも活動が広がってきています。令和6年度はこれまでの活動に加え、新たに民間団体主催の野外イベント内で計3回実施する予定です。（7/20、8/17、9/21） 現在、市広報、新聞、HP等にて周知を図っていますが、一人でも多くの方に活動をしってもらい、フードドライブの取組がより広がるよう引き続き工夫検討していきます。
17	放置自転車等の対策	駅周辺を中心に放置自転車の把握及び撤去を行う。	【活動実績】 放置自転車の実態調査：1回/月 放置自転車の撤去：2回/年 撤去台数：37台 放置自転車防止の啓発活動：2回/年	自転車の管理指導と放置自転車の撤去を図る。また、歩道、自転車道、駐輪場の整備を関係機関と協力し検討する。	4	4	建設課	

基本目標	V みんなで学び行動しよう 環境について知り、学び、そしてそれぞれが、また連携して行動し、より良い諏訪市の環境づくりに取り組みます。
------	---

●方針ごとの評価推移

項目	R4	R5	R6	R7	R8
評価点平均	3.75	3.86			
1.1 環境教育を推進しよう	3.50	3.71			
1.2 協働による環境保全活動を推進しよう	4.00	4.00			

基本目標V

考察	<p>■子どもに対する環境教育については、引き続き環境紙芝居の実施、小中学校での環境教育、児童向けの脱炭素イベント（ゼロカーボン実験教室）を実施している。令和5年度の小中学校での環境教育では、ゼロカーボン講座に職員が講師として参加し、既存の枠組みの中で脱炭素と経済の両視点が必要という広い視野を持つ人材育成につながる結果をもたらした。また、昨年度から引き続き地元公立大学の協力を得て児童向けのゼロカーボン実験教室を開催。今年度は新たに学生にも講師を依頼したこともあり楽しみやすい講座になったと同時に、学生の諏訪地域への関与機会提供にもつながった。</p> <p>■行政職員を対象とし脱炭素に関する意識向上の研修を複数種類実施した。脱炭素社会実現には各分野においての施策展開が必要不可欠であることから、今後も継続して職員への意識醸成図る必要がある。</p>
----	---

意見の対象	意見	回答
基本目標5	諏訪教育会、環境推進会議委員等との意見交換会を開催し、諏訪市環境課が進めようとしている第三次諏訪市環境基本計画の概要を説明して協力連携を図っていくと良い。	環境基本計画の対象は、本市の環境への影響が考えられる活動全てです。また推進主体も、市民、事業者、行政等、本市に関係する全ての関係者としていることから、各主体との情報共有は必要です。現在は、各主体（市民・事業者・市）の代表が参加する環境推進会議において計画の推進をしておりますが、推進会議の役割には啓発の検討もあります。各主体における協力連携＝協働による意識啓発等、推進会議の活動効果の向上を含め検討をいたします。

基本目標 V みんなで学び行動しよう

方針 11 環境教育を推進しよう

- 取組の方向
- ①積極的な情報発信
 - ②様々な学習機会の提供

評価の推移	R4	R5	R6	R7	R8
※評価点の平均	3.50	3.71			

【評価点】

- 5…十分取り組まれている [100%以上の進捗状況]
 4…かなり取り組まれている [80~99%の進捗状況]
 3…ある程度取り組まれている [50~79%の進捗状況]
 2…あまり取り組まれていない [30~49%の進捗状況]
 1…取り組まれていない [30%未満の進捗状況]

主な取組		実施内容 <small>※新規又は改善した取組については下線</small>	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	広報すわでの情報発信	広報すわ裏表紙に脱炭素コラムを隔月掲載し、情報提供と意識啓発を図る。	脱炭素コラムについてはYouTube動画と連動させる工夫をするとともに、特集記事、環境ニュースにおいて情報発信を実施した。 【掲載履歴（特集のみ）】 脱炭素コラム…計6回（隔月・内動画連動5回）、ゼロカーボン特集（6月号4ページ）、公害特集（9月号1ページ）、外来生物特集（5、6月号各1/2ページ） ※挟み込みにて環境ニュースを2回発行	広報すわは市内全世帯にポスティングされるというメリットがある。読んでもらうためには掲載することに満足せず、相手に届く掲載内容の検討を継続する。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室ン	
2	環境紙芝居	市内公立保育園において環境をテーマにした紙芝居の読み聞かせを実施する。年度ごと紙芝居のテーマを一つに統一して実施し、環境への関心の入口をつくる。 また、紙芝居のテーマの塗り絵を配布し、家庭で保護者と共に遊ぶことで保護者への啓発へつなげる。	市内全園にて実施。R5年度は「ごみ問題・リサイクル」にテーマを統一し、園児でも分かりやすく読み聞かせを行った。 【実施園数】 13園/15回	幼少期から環境問題を身近なこととして感じてもらうため、今後も継続して取り組んでいく。	4	4	環境 課	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
3	出前講座の実施	ごみの分別方法、環境保全、脱炭素社会実現をテーマに職員が区、団体、学校、企業等に訪問し、取組内容や仕組みについてを直接説明する。	ごみの分別については区を中心に出前講座を実施。脱炭素については諏訪中学校のゼロカーボン講座において説明を行った。 【テーマ別実施回数】 環境衛生4回、環境保全1回、脱炭素1回	学校での出前講座は、その後の学習につながる要素であることから、先生との打合せを行い内容をアレンジして実施していく。	3	2	環境課	学校等の教育は重要。出来れば仕分けされたごみ箱で普段から出来る環境に関する事が自然と身に付くのではないか。ただし、現状モラルが悪いのは大人。職場や公共施設での設置を促す等必要ではないか。 →毎日の生活の中で環境に配慮した行動が習慣化するよう工夫することは効果があることと認識しています。出前講座1回で終わらない、今後の生活にもつながるアプローチの方法を検討したいと思います。 台所から油を流さない、洗濯や食器洗いの時必要以上に洗剤を使わない。合成洗剤が諏訪湖に流れこむのを防ぎたいので、子供たちの環境教育により一層力をいれていただきたい。 →台所の話、諏訪湖の話は一番身近で、子どもたちにもイメージしやすいものだと思います。出前講座、また他の項目ではありますが、環境紙芝居などにより、子どもたちへの教育を引き続き続けていきたいと考えています。
4	行政の意識向上	様々な事業の実施において環境への意識を持った取組を推進するために、職員に対する意識醸成研修等を実施する。	各種研修において脱炭素に関する説明を実施。代表例としてSDGsを題材に分野間の連携を視野に入れた「SDGsによる職員力向上研修」を実施し、各分野における脱炭素の重要性を学習した。 【研修参加者】 SDGs研修36名、新任係長研修15名、5年目職員研修9名、新規採用職員研修22名 ※その他、庁内WEB掲示板において取組周知等実施。	環境分野以外の取組において脱炭素への要素を入れることが必要不可欠であることから、継続的な職員側の意識醸成を実施していく。	4	-	シゼ テロ イカ 推 リ 進 ボ 室	

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	小中学校での環境教育 (再掲)	小中学校の総合の学習の時間を中心に、脱炭素要素を導入し、児童生徒の地球温暖化等に関する意識向上を図る。	<p>諏訪中学校においてはゼロカーボン講座で職員が講師となり、市の取組状況や背景等について生徒に対して説明。文化祭での成果発表では、環境と経済という両方の視点が必要という、脱炭素社会実現に必要な要素の学習につながった。</p> <p>【実施結果】 教諭への説明…全10校、授業での実施…1校、すわ未来創造子どもゆめプロジェクトでの説明…1回</p>	<p>教育現場への負担を増やさずに効果的な環境教育を実施する手法の検討を引き続き進めていく。</p>	3	3	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室ン	<p>小中学校での教育は必要（重要性・意識づけ）。動画等を活用し負担軽減。地域等の活動は補足資料にすれば良いのでは。未来に向け自分たちが何が出来るかを考える機会が重要。</p> <p>→脱炭素社会において未来の地域を支える人材を育成するという面でも、教育は重要と考えます。一方、教員の過重労働は社会問題にもなっています。動画、教材提供等工夫し、持続可能な環境教育実現に向け引き続き検討をします。</p> <p>広く環境教育を進めていくのには小中学生への働きかけが最も重要。脱炭素社会とはの詳細について分かりやすい分析をした資料の収集は勿論「ゼロカーボン社会」を何故目指すことが必要なのかを小中学生の意識に植え付けていくことが将来社会への大きな警鐘につながっていくものである。二酸化炭素削減が叫ばれている地球にとって大きな課題として総合学習的扱いで諏訪教育会等とも連携して進めるべきである。</p> <p>→積極的な働きかけは継続しますが、ふるさと学習等を含め総合の学習の時間では様々なテーマを取り扱っています。現状としてそこに脱炭素を義務的に含めることは、教員に対する負担を更に増やすことにつながることから実施する考えはありませんが、脱炭素はどの分野にも関連する内容であることから、各分野の学びに一要素として脱炭素を関連させ自然と学べるという手法を模索し実施しています。その中で重点的に学習をしたいという要望に対しては積極的な関与と支援を実施します。</p> <p>（回答次ページに続く）</p>

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
5	小中学校での環境教育 (再掲) 回答続き							小中学校での環境教育について、諏訪中学校の取組について報告されていたが、他の中学校、小学校での取組について、具体的な記入が必要ではないか。それ違っていても良いので、各校での取組についての報告及び計画が必要ではないか。 →昨年度授業において実施した代表的な取組について、ゼロカーボンについては諏訪中学校のみとなりますが、上諏訪中学校においてもごみ処理に関する教室を実施しています。脱炭素に限らず教育現場における環境教育の結果について把握し、公表につなげる手法を検討します。
6	森林学習の実施と充実 (再掲)	講座等を活用し、諏訪市が貴重な自然資源を有していることを伝える。 また、効果的な森林学習実施につながるよう、森林体験学習館で使用する道具の更新を行う。	自然と遊ぶつどいを4回実施。他係とも共催し、参加者の募集に努めた。 【講座参加実績】 延べ75名、第1回24名、第2回21名、第3回20名、第4回10名	参加者の減少、固定化が見られるので、引き続き他係との共催を模索する等、多くの方に講座に参加いただけるよう努める。	4	4	生涯学習課	
7	意識醸成イベント及び講演会実施（再掲）	くらしいきいきエコフェスタにおいて、大学生を講師として児童向けの脱炭素イベントを開催し、意識醸成を図る。	公立諏訪東京理科大学小川准教授及び学生を講師に、電池をテーマにしての親子実験教室を開催した。 【実施結果（参加者）】 市内小学校親子16組、講師参加大学生10名	大学生を講師としてすることで、楽しみながら脱炭素を学べる講座になったことに加え、学生の地元への関与機会提供にもつながっている。脱炭素意識醸成とともに地元人材確保につながる取組として認識し、大学と連携した取組を継続していく。	4	4	シゼ テロ イカ 推 進ボ 室ン	

基本目標	V みんなで学び行動しよう
方針	12 協働による環境保全活動を推進しよう
取組の方向	①できるところから行動 ②多様な主体との連携

評価の推移	R4	R5	R6	R7	R8
※評価点の平均	4.00	4.00			

【評価点】	
5…十分取り組まれている	【100%以上の進捗状況】
4…かなり取り組まれている	【80~99%の進捗状況】
3…ある程度取り組まれている	【50~79%の進捗状況】
2…あまり取り組まれていない	【30~49%の進捗状況】
1…取り組まれていない	【30%未満の進捗状況】

主な取組		実施内容 ※新規又は改善した取組については下線	実施結果	今後の課題や取組の方向性	評価点	前年評価	主担当課	環境推進会議委員意見 →（意見に対する担当課回答）
1	連携取組体制の構築	同じ社会課題解決を考える企業や団体と連携することにより、取組の加速化を実現する。	新たに4者と環境分野を含んだ連携協定を締結した。 【新規協定締結先】 ・サントリーグループ ・諏訪信用金庫 ・セイコーホームズ(株) ・信州タケエイ／TREホールディングス(株)	協定締結をゴールとせずに、継続した取組の検討と実施が必要となる。	4	4	ゼロカーボン環境シティ・推進室	
2	ESG債券への投資	資金の一部を運用し、グリーンボンド等社会課題解決につながる事業に限定して発行される債券を購入する。	【会計課】 長野県のグリーンボンドの主旨に賛同し、債券を購入。 購入額 7千万円 【水道局】 兵庫県のグリーンボンドの主旨に賛同し、債券を購入。 購入額 1億円	引き続き、各都道府県が進める環境施策等と協働することを目的とし、グリーンボンドへの投資を検討する。	4	4	会計課・水道局	